



第25号

編集発行

園田学園女子大学

シニア専修コース

「けやき便り」

編集クラブ

2022年度に向けて

園田学園女子大学
学長 川島 明子

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、なお様々な影響を被られている方々に心よりお見舞い申し上げます。

2020年度から2021年度にかけて4回の緊急事態宣言が発出され、平成14年に設置し20年以上の歴史を重ねてきましたシニア専修コースについても、従来通りの対面による開講については中止という苦渋の決断を致しました。

一方、各方面でデジタルトランスフォーメーション(DX)化が推奨され、オンラインで他者とつながる機会が増えてきたことを好機と考え、シニア専修コースの受講生の皆様とのつながりを継続することを第一に、オンラインキャンパスを開設し、「SONODA インテリジェンス講座」等オンラインによる講座を中心に実施しました。多くの皆様にご賛同頂き、ご参加いただいたことに心より感謝申し上げます。

さて、大学ホームページに掲載の通り、大学の授業実施方針については(2021年10月1日以降)、後期授業より、三密等の感染拡大防止対策を十分に行った上で、対面を主体とした授業形態を実施しています。

また、今年度は学生が講義、クラブ活動や地域社会での活動等の経験により学び積み重ねた成果を地域社会に発信する好機として開催してきたけやき祭を、学生の強い希望により、担当部署と議論を重ね、シニア専修コースの皆様方にも協賛いただきオンラインにて再開することができました。

今後の生涯学習事業につきましては、すでにホームページに掲載していますように、感染拡大防止対策に配慮しながら対面にて「特別公開講座」を開催することにいたしました。コロナ禍での活動は、状況の変化を見極める慎重な姿勢を崩すことなく予防対策と段階的規制緩和の両面に対応することが必要だと考えています。そのような中でも、皆様と再会できる第一歩を踏み出したいと思います。

現状への不安や閉塞感、感染への恐れのない、心豊かに過ごせる新しい日常になることを心から願ってやみません。

皆様方には変わりなくご健康に留意され、毎日を元気で過ごされますことを心より祈念しています。

目 次

2022年度に向けて……………園田学園女子大学学長	川島 明子	P1
目次……………		P2
ふたつの「おしらさま伝説」-『遠野物語』と『搜神記』……………(国際)先生	松山 利夫	P3・P4
プログラミング雑文……………(情報)先生	難波 宏司	P5・P6
ご挨拶……………(国際)先生	中村 真里絵	P6
花と虫と鳥と人と……………研 究 生	井上 聖明	P7
散歩して目についたこと……………文 歴 3 年	田畑 芳彦	P8
「Viva! 午前十時の映画祭」……………文 歴 2 年	田中 祐二	P9・P10
文学歴史学科9期生同期会……………研 究 生	木下 俊造	P10
時節柄の対応に苦慮……………研 究 生	木村 勲	P11~P13
「緊急事態宣言」解除も自粛生活……………国 際 2 年	鈴木 好夫	P14
シニア専修コースの活動の一部を本にしました……………研 究 生	阪田 正樹	P15
我が家にやってきた画……………文 歴 2 年	河田かつのぶ	P16
私とフィールドワーク……………研 究 生	中村 米三郎	P17・P18
コロナで自粛中 なにをしたの?……………研 究 生	峠田 桂子	P19・P20
コロナ禍とケーキ……………研 究 生	高山 純子	P21
「よもやま話の会」報告3……………文 歴 3 年 文 歴 2 年	櫻井 秀也 河田かつのぶ	P22~P24
《ざっきちようから》初めての太刀魚……………研 究 生	金森 扶美子	P25
わたしの作品 水彩画 ……………文 歴 卒 業 生	山根 邦男	P26
クラブ・同好会 状況報告……………		P27~P31
読者の声 ~「自粛生活での思い」と「学校へ望むこと」~ ……………編集クラブ		P32~P34
社会連携推進センター 生涯学習ユニットからのお知らせ……………		P35・P36
編集後記……………編集クラブ		P37・P38

ふたつの「おしらさま伝説」

『遠野物語』と『搜神記』

国際文化学科 松山 利夫

「日本の風土と文化」の授業では、テキストを読んで現地を訪ねるということを、4年続けました。それは、2017年の「出雲国巡り」にはじまり、18年の『遠野物語』の旅から、19年の「米沢藩『かてももの』の旅」へと展開しました。いずれも希望者だけの参加でした。そして20年には、奄美大島への『南東雑話』の旅を計画しましたが、実施直前になって、コロナで中止になりました。世話役の努力を台無しにし、現地の人たちの期待（わたしたちの訪問を心待ちにしてくれていました）を砕くことになりましたが、コロナでは仕方ありません。

旅に出たいなあ……。『巣ごもり』にもあきて、さきの3つの旅のアルバムをとりだして見ていました。どれにも元気で、にこやかな顔が並んでいます。そんななかで、「あっ！」と思ったのが、『遠野物語』の旅にある「おしらさま」の写真でした。



ご存じの通り、『遠野物語』には、「おしらさま」の誕生が語られています。「第六九話」です。「昔あるところに貧しい百姓がいた。妻はなくて美しい娘がいた。また、一頭の馬を飼っていた。娘がこの馬を愛して、夜になると厩に行っ

て寝、ついに馬と夫婦になった。ある夜、父はこのことを知って、その次の日に、娘には知らせず、馬を連れ出して、桑の木に吊り下げて殺した。その夜、娘は馬がいなくて父に尋ねてこのことを知り、驚き悲しんで、桑の木の下に行き、死んだ馬の首にすがって泣いていたが、父はこれを憎み、斧でもって後ろから馬の首を切り落とすと、たちまち娘はその首に乗ったまま天に昇り去った。オシラサマというのはこのときから成った神である」（『あおぞら文庫』の現代語訳より）。

「あっ！」と思ったのは、ひとつにはこれに似た話が、4世紀の中国にあったからです。ふたつには、この旅の時にそれを知っていて、みんなに話せたらすごく格好よかったのに残念！だったからです。その時には勉強が追い付いていなかったのです。

さて、4世紀から5世紀の中国では、江南（揚子江、現在の長江の南）地方をはじめ、各地に新しい知識層が誕生したといえます。彼らは鬼神を論じ、超常現象を信じ、それを記録にとどめたいらしいのです。こうして、この時期に「志怪小説」（怪異を記録するという意味）という新ジャンルが成立したそうです。そのひとつが『搜神記』だといえます（竹田晃 1972（1964）『『搜神記』解説』平凡社東洋文庫『搜神記』391-398頁）。その存在は、大林太良 2001『山の民 水辺の神々—六朝小説にもとづく民族誌—』大修館書店を勉強して知っていました。でも、読む時間がなかった。

「巣ごもり」を強制されてやるのがなくな



り、思い出して『搜神記』に挑戦してみました。そうしたら驚いた。「おしらさま」が記録されていたのです。「巻十四 350 馬の恋」がそれです。あらすじを紹介しましょう。

「父親が遠方に出征した。一人残された娘は、さみしさと父親恋しさと、飼っている馬に、父を連れ戻してくれたらお前と結婚してあげるといふ。それを聞いて馬は、たちどころに駆け出し、父親を連れて帰ってきた。馬がしきりに怒るようなので、父親があやしむと、娘は一部始終を話した。すると父は、「畜生のくせに！娘と結婚することはならん！」といい、馬を殺し、皮をはいて木に掛けておいた。その後のある日、娘が皮の端を誤って踏むと、馬の皮は娘を包んで飛び去り、しばらくしてさきの木にもどると、ふたつの大きな蚕になった。その木を人びとは「桑(そう)」とよんだ。それは「喪(そう)」と同じ音だからである。いま育てる蚕は、これが始まりであった」(竹田晃 訳 1972(1964)『搜神記』平凡社東洋文庫より一部改変)。

記録された時代に大きな隔たりがあるにもかかわらず、父親と一人娘、娘と馬の恋、父親の怒りと馬の殺害、桑の木に吊るした馬の死骸または馬の皮、蚕または蚕の神様(おしらさま)の誕生は、ふたつの物語に共通です。これを「遠野の旅」のときに現地で話せたら格好よかったのに、再び、残念！

それはともかく、このふたつが偶然ではないことを示すために、『搜神記』の「羽衣伝説」をみておきましょう。「354 鳥の女房」です。

「いまの江蘇省に住んでいた男は、田の中に7人の娘を見かけた。どれも毛の衣を着ていて、鳥か人か区別がつかなかった。そばまで這って行った男は一人の娘が脱いでおいてあった毛の衣を隠してから、さっと近寄って捕まえようとした。すると皆飛び去ったが、一羽だけ飛べずに残った。男はそれを女房にして、3人の娘を産ませた。その後、女房は娘に言いつけて衣のありかを聞きださせ、稲藁の下にそれを見つけると、天に飛び去った。その後、娘が飛べるようになると、母親が迎えに来て、みんなそろっ

て天に飛び去った」(前掲 竹田晃 1972)。

日本の羽衣伝説とよく似ています。つまり、天女の羽衣を盗むこと、盗まれた天女は一人であること、その天女が人間の男の妻になることです。

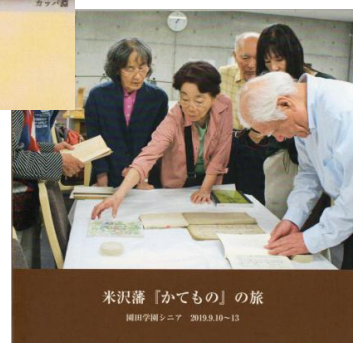
「おしらさま」も「馬の恋」も、羽衣伝説も「鳥の女房」も、いわゆる異類婚姻譚(いろいろいんたん 人間と人間以外との結婚にまつわる話)です。この類型の話はヨーロッパにもあるそうです。それはそれでいいのですが、どうしてこうも似た話が、4~5世紀の中国と、高度産業化以前の日本にあったのだろう、という問題が残ります。その理由はよくわかりませんが、大林先生(故人)がさきの本で示唆されたように、「志怪小説」の世界は、日本の稲作文化の基層にひそんでいるのかもしれません。

コロナで余儀なくされた「巣ごもり」も、思わぬ効果をもたらしてくれましたが、それよりもやっぱり、旅に出るほうがよほど楽しみです。またテキストを読んで、旅に出かけましょう。そして語り合い、飲もうではありませんか。

最後に、平凡社東洋文庫は、園田学園女子大学図書館でなくても、市立や県立図書館が収蔵しているはずです。興味をお持ちの方は、ちょっと覗いてみてください。それと奄美大島。テキストはすでに読みましたので、コロナがおさまったら訪ねてみたいものです。



前ページ左の「おしらさま」の写真は遠野市立博物館で写す。上と右は、フォトブック表紙



プログラミング雑文

情報学科 (大学情報教育センター所長) 難波 宏司



これは、私のこれまでのプログラミング経験で感じたことをエッセイ風にしたものです。ほとんど専門的な内容はありません。気楽にお読みください。

のど元過ぎれば

私は電気専攻でしたが、「プログラミング」の講義はありませんでした。先生の言によると、「プログラミンは簡単だから、必要に迫れば誰でもできる。講義するほどのこともない」。研究室に入って、先生から「このプログラムを修正しろ」という指示を受けて、1か月眺めてみたのですが、さっぱりわかりません。自分は全く能力がないと感じ、先生に「私には出来ません」というと、先生は「自分もできなかったが、この本を読んだらひと月でプログラムが組めたよ」と本を紹介していただきました。その本を読んでもみると、今まで悩んでいたものが「霧が晴れる」ようにさっとわかるようになりました。その後、教員になって、「プログラムって簡単で誰でもできる」と言っている自分がいました。

すべての道は〇〇に通ず

先生に教えていただいた本の名前は、森口繁一先生（日本のプログラミング教育のパイオニア）の「FORTRAN 入門」でした。この本を多くの人（主に文系）に勧めたのですが、読んでよくわかったという人は少数でした。何故なのか、最近読んだ



アメリカのある報告書には、コンピュータを理解する方法として。理論的思考(考えてわかる)、実験的思考(試してわかる)、製造的思考(作ってわかる)の3つがある。と記述されていました。森口先生の本は、演習を自分でやって理解させるというものでした。上の実験的思考です。この思考の人(工学の電気や化学に多い)にはピッタリですが、それ以外の人にはわかりにくいものだったと思います。

何か新しいものを理解するのに皆が同じように理解することはありません。人それぞれによって独自の方法で理解していています。伝える(教える)方は一つの方法かもしれませんが、学ぶ方は、質問や他の人との話の中で、違った方法で理解していているのではないのでしょうか。みんなで学ぶことが重要だなと(かなり飛躍してすいません)と思いました。

亀の甲より〇〇〇

就職氷河期に行政は、若い人向けの一時的な仕事を提供しました。その中に教育系システム開発業務があり、そのサポートをしたことがあります。それは、蔵書提供システムの作成で、個人の人が必要となった本を学校などにネットを通じて寄付できるシステムでした。これを何も無いところから作り上げるという業務でした。採用された若い人は、情報系の学校を出ており、ネットのプログラミング言語(PHP)の知識は私以上でした。期待したのですが、プログラミング以前に、どういう機能が必要でどういう構成で作ればいいのか(基本設計)のアイデアがありません。こちらの方で作って、説明しなければなりません。そしてそれに基づいて

プログラムを作らせみると、凝ったつくりにはなっているのですが、何をどう入力すれば使えるのかがよく分からない使いにくいものでした。使う人の立場に立って作れと言って、何度も修正してようやく完成しました

しばらくして、年金の関係から「シニア」の方に対しても同様の事業が行われました。今度は奨学金のネットでの予約システムでした。採用された方は、「以前銀行システムの開発に関わったことがあるが、ネットのプログラミングはしたことがない」とのことでした。それで、ネットプログラミング(PHP言語)を教えました。3回くらい教えた後、私の教え方が悪かったのか、「PHPのいい本を紹介してくれ。後は自分で勉強する」といわれました。それからは、1週間に1回程度電話での質問があり、その理解の速さに驚いたのですが、しばらくすると質問もなくなりました。半年近くなって忘れかけたころ、突然、電話があり、「プロトタイプ(試作品)ができたのでチェックして欲しい」とのことでした。それはほぼ完璧なものでした。作った経過を聞くと、「システムを作った経験があるので、どう作ればいいのかすぐわかった。PHP言語は初めてだったが、これまでの経験からどうにか使えるようになった。それ以上に、奨学生に役立つシステムを作らなければ」という使命感で頑張った。」と言われました。プログラミングは、ロジックではなくハートだなと思いました。

ご挨拶

国際文化学科

中村 真里絵



みなさま、お元気でお過ごしでしょうか。

2017年度より国際文化学科で文化人類学入門を担当させていただいておりましたが、この度、PHP本務校の都合により、園田での仕事を終えることになりましたので、ご挨拶させていただきます。

思い返せば、園田での仕事を始めた初年度は自分よりもご年配の方々からのストレートな質問や変化球の質問にとまどうことも多く、緊張の連続のなかで講義をしていました。同時に、普段はおとなしめの大学生相手に講義をすることが多かったため、様々に反応をして下さる皆さんを前に講義をすることは刺激となりました。おかげさまで鍛えられた対応力は今後生きてくことと思います。また、みなさんの知的好奇心やエネルギーを見て、自身の将来を考えるよい契機となりました。国立民族学博物館の見学に行ったり、お食事をしたりしたのもよい思い出です。

これまで大変お世話になりました。これからも皆さんのご健康とご多幸をお祈りいたします。

*中村真里絵先生は、国際文化学科1年必修科目「文化人類学入門」(2017~2019年度後期)をご担当されました。



花と虫と鳥と人と



研究生 井上 聖明

J R高槻駅前の商店街を山側に抜けたところに「J T生命誌研究館」という小さな展示ホールを持つ研究施設がありますが、そこで今年の夏から秋にかけて「昆虫と植物の駆け引きの妙」という特別展示がありました。

その内容は、昆虫と植物がお互いを利用し(だましながら)、巧妙な駆け引きがなされていることについて、モンシロチョウとキャベツの関係を例に写真や絵で展示したものです。



もともと植物は花粉を「風まかせ」で運ぶ花<風媒花>ばかりだったのですが、約1億年前(恐竜がいた時代)あたりから「虫に運ばせる」<虫媒花>が増えて、花の形や色、匂いを変えることによって、近寄ってくる昆虫や鳥の種類を変えているのです。不思議ですね。

花(植物)は昆虫や鳥や人のように自由に動き回ることはありませんが、太陽の光を葉で受け止め、光合成でエネルギーをつくり出し、根で土から水や養分を吸収して育ち、花を咲かせ、受粉し実をならせて次の世代を育てていきます。

この過程で、昆虫に蜜という餌を与える代わりにめしべの花粉をおしべに付けたり、離れたところにある自分と同じ花に花粉を運ぶ仕事をさせるのですが、その作業をさせる昆虫や鳥を選別する方法を永い年月をかけて変化させているのです。まるで、目や耳や鼻などを持っているがごとくいろいろ考え工夫し、試しながら変化を加えているようにすら思えます。

形を複雑にしたり、蜜を奥にためたりして、昆虫がながくとどまり、多くの花粉を体につけさせる工夫、例えば、壺状の花の中間辺りに昆虫がやっと通れる穴が開いていてしばらくもがいた後、他の花に行かせる様に変化したものや、一本の木に時期をずらして色の違う花を咲かせ、寄ってくる昆虫の種類を変えるものもあります。

また、日本では少ないのですが、熱帯地方では鳥に花粉を運ばせる<鳥媒花>が多くあり、蜜を吸う鳥



には、花に合わせてくちばしの形を細くさせたり、蜜の量を多くしたり、花の色を濃くする、などによって特定の鳥を呼びよせているのです。

では、花(植物)と人はどうでしょう。

人は花の形、色、匂いに魅せられてせっせと世話をしますが、特にランなどは、特定の場所から人の手により移動を繰り返し、寒冷地でも温室で繁殖して、さまざまな品種に変化しながら世界中に運ばれているのです。それと、花は地味ですが、米や、果物なども人がいろいろな種類をつくり出して生息地を拡大しています。



こうしてみると、花(植物)にとっては昆虫も鳥も人も、自分たちの繁殖にとっても役に立つ便利な生き物なのですね。

しかしいつの日か、人が花(植物)に危害を与えると気付いたら(もう気付いているかも知れない)何万年かの時間をかけて人を排除するものに進化するかもしれませんね。



花と仲良く生きましょう。

散歩風景

文学歴史学科 3 年 田畑 芳彦

散歩をしていると色々と目につくことがあります。

その1:移動スーパー「とくし丸」

以前テレビで「とくし丸」という会社の紹介ニュースをみたことがあります。

徳島県の人が始めた商売ですが、軽四に色々な生鮮食品を載せて過疎地で販売するというものです。地方では高齢化が進み買い物もままならないという人が大勢いるのですが、そういう人達に軽四に生鮮食品を積み込んで売り歩くわけです。徳島で大きな成功をおさめ、その後全国展開をしています。

頭がいいのは「とくし丸」が直接商品を仕入れるのではなく、そのご当地にあるスーパーと提携して、そのスーパーの商品を売り歩くということです。それによって仕入れに関する色々な問題をパスすることができ、またスーパーとしても彼らに売ってもらうことで売り上げ増に繋がるという Win Win の関係です。

今日、近所を歩いていたら道に人が集まっているので何かと見ると、賑やかな外装の「とくし丸」の軽四が停まっているではないですか。車の三方が開けられて、中には食料品がぎっしり。集まったおばさん、おばあさん達は結構色々と買っているようです。

この近所には「つかしん」というショッピングモールがあります。今日の「とくし丸」の位置から徒歩 10 分くらいでしょうか。そこには勿論何でもあります。おそらく「とくし丸」より安いのではないのでしょうか。それでもおばさん、おばあさん達は買っています。何でやろか??? と考えながら歩み去りました。

その2:「Holly's Café」

小生の散歩ルート上にあるコーヒー店で「Holly's Café」というのがあります。ちょっと調べてみたら 50 年程前に京都が創業の地の

ようです。関西にのみ店があり、それでも 90 店舗ほどあります。従業員 541 人の内パートが 514 人とあります。

我が散歩ルートにも 2 軒あります。この店の特徴は先ずお値段がリーズナブル。モーニングトーストセット(コーヒー、トースト、茹で卵)が 390 円というお安さ。

次にどの店もスペーシィであること。いつ行っても空席がたっぷりで落ち着いてくつろげる。ただ大きな店にも拘らず、基本的にスタッフは一人で注文を受けてトーストを焼いて、テーブルを拭いてと大忙しです。

この店のスタッフはいつでも誰でも注文品を手渡した後、深々とお辞儀をして「ごゆっくりどうぞ」と言います。体を 90 度近く曲げるのです。コーヒー一杯でそんなにお辞儀をしてもらっても・・・とこちらは思うのですが、とにかく毎回そんなことなのです。

一昨日のことです。いつもの窓際の席でぼんやりしていたら、若い女の子の二人連れがやってきた。お盆の上にはアイスコーヒーとクリームソーダが載っている。・・・と見る間にテーブルに置き損ねてアイスコーヒーのグラスが倒れてしまった。机や椅子は濡れてしまった。一人の子がカウンターに行って何やら言っていると、直ぐスタッフの一人が沢山の布巾を持ってやってきた(その時はスタッフは二人だった)。スタッフはひたすらテーブルと椅子を拭き始める。女の子達は横で立ったまま傍観している。それを見たスタッフが言いました「別の席にご自由に移動してください。新しいコーヒーは直ぐお持ちします」と。女の子達は黙って席を替わる。スタッフは一生懸命に拭き掃除を続ける。

お辞儀の仕方といい、今回の対応といい、この会社はどういう社員教育をしているのだろう。特にパートという流動的な人材にいかにしてここまでのことをさせうるのだろうか?と大いに疑問を持ちました。きっとこの会社の経営者は何らかの信念・信条をもっているんだろうな、それは何だろう?と思い会社のホームページにある顧客意見欄にメッセージを書き込みましたが残念ながら今だ返答はないようです。

「Viva! 午前十時の映画祭」

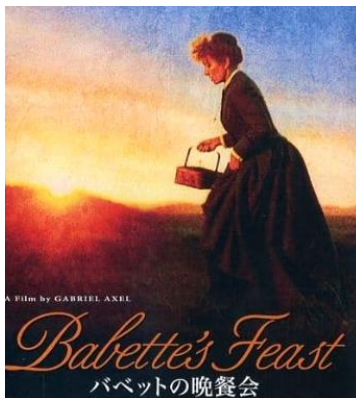
映画「真昼の決闘」(コロナ禍を生きる)

文学歴史学科2年 田中 祐二

「午前十時の映画祭」というのは、今やなかなか劇場で観る機会のない映画史に残るような名作、ヒット作の数々を毎日午前10時から全国の映画館で上映する映画祭の事で、2010年からスタートしました。第10回を節目に一旦終了となりましたが、今年4月より第11回として再開され、とても喜んでおります。今は簡単に過去の名作を配信等で観れるようになった時代ですが、名画座を探しまくってようやく映画館で観ていた年代の者としては、やはり大きなスクリーンで、という事になります。

体力的な老いを感じるようになってきた今日この頃、過去に心を揺さぶられた映画を、最後に1回は映画館で観たいと思うようになりました。そういう意味で、「午前十時の映画祭」の復活は本当に有難いという気持ちで一杯です。

館内は映画をこよなく愛するオールド・ファンが多いので、マナーがしっかりしており、上映中にポップコーンを食べる大きな音やスマホの光を出したりしないので、気持ちよく鑑賞ができるのも感謝です。



かなり前ですが、「バベットの晩餐会」(1987年)というデンマーク映画を観たときは、最初から館内の雰囲気がとても良くて、主人公が美味しいような料理を出す度に、館内のあちこちからため息が漏れるのが聞こえ、映画の中の世界と観客が一体となって幸せを感じるという至福のひと時を過ごしました。

今年の9月にまさか「真昼の決闘」(1952年)が映画館で観れるとは思いませんでした。監督は敬愛するフレッド・ジンネマン! この監督の映画はいつも間違いなしです。有名な映画ですので、過去に観



られた方も多いと思いますが、ゲーリー・クーパー扮する保安官が4人の無法者にたった一人で立ち向かう姿をリアルな描写で描き、1953年・第25回アカデミー賞で主演男優賞など4部門を受賞した傑作西部劇です。ヒロインの新妻役に当時ほぼ無名だったグレイス・ケリーが抜擢されています。主人公が無敵のヒーローではなく普通の人間として描かれているところにこの映画の特徴があります。

音楽がとても素晴らしい上に、劇中時間と上映時間が同時進行で進むので、リアリズムを体感します。絶えず時計を示して時間の切迫をあらわし、主人公の焦燥感を強めますし、クライマックスの射ち合いも町の中を転々と追いつ追われつで、普通の西部劇の痛快な決着とは違う味を出しています。

この映画がなぜ非常に心に残っているかというと、主人公の孤独や恐怖がテーマになっているからです。町の人々に加勢を頼むも、皆に協力を拒否され、たった一人で戦うことを決意す

る主人公の悲壮感に心を揺さぶられます。そして最後は逃げずに戻ってきた新妻の助力により危機を乗り切るわけです。

この映画の主人公はまさに長引くコロナ禍における私たちと同じだと思いました。コロナ感染の恐怖、ステイホームによる孤独感の高まり・・・この危難に打ち克つには、やはり日頃から相互信頼できる人との繋がりが重要だという事を改めて認識した次第です。(特に生涯のパートナーは大切に！)

約50年近く前になりますが、高校受験勉強迫込み時期に中学校内で決起集会が行われた時、進路指導担当の映画好きの教師が、檀上の挨拶でしきりにこの映画「真昼の決闘」を観ることを薦めていた事が思い出として残っています(横に並んでいた教師たちが皆、苦笑いをしていました)。何事も諦めずに最後まで頑張れば必ず合格への道は開ける、という事を言いたかったのでしょうか。この度、久し振りにこの映画を観て、中学教師の叱咤激励の言葉を思い出し、何かしら元気が出てきました。



長期に渡るコロナ禍で心身共に疲れた方も多いと思いますが、その間に発行された電子版「けやき便り」によって、心の片隅に柔らかな光を灯していただき、気持ちがとても癒されました。「けやき便り」編集クラブの皆様、本当に有難うございます。

映画ですと、苦難が続くと必ず救世主が現れます。私にとってそれは何かと言いますと“シニア専修コースの再開”です。園田学園生涯学習ユニットのスタッフの皆様、何卒宜しく願い致します。

文学歴史学科9期生 同期会

研究生 木下 俊造

2021年11月12日、ほぼ2年ぶりに同期会が開催できました。コロナ禍も以前よりは好転の兆しがあるものの、感染対策もまだまだ必要な状況だったためか、前回より少なくはなりましたが、それでも14名の方の出席をいただき盛会となりました。

交通の便に恵まれた会場だったおかげもあり、遠くは滋賀県からも来ていただき、最高齢ながら毎日数千歩歩いておられる方ともども、元気さと熱心さには頭の下がる思いです。



JR 尼崎駅改札付近に集合し、駅直結のホテルでいただいた4種類から選べるランチに、皆様満足されたようですが、一番楽しめたのは、待ち合わせ場所からスタートしたおしゃべりではなかったでしょうか。

久しぶりの再会で積もる話があったのは当然として、待ちかねた出会いへの喜びでもあったようです。

今回は見学や観覧はできず、ランチのみとなりましたが、次回は周りの状況も整い、食事以外の催しもでき、また多くの皆様と集えればと願っています。

文学歴史学科9期生同期会は卒業後8年を経ても、半数近くの方の出席をいただいていますので、来春もお会いできますよう、皆様お元気でお過ごしください。

時節柄の対応に苦慮

研究生 木村 勲

■ブログ作品展の立ち上げ

学外で2グループ運営している写真クラブが昨年来よりコロナの影響で撮影会も勉強会も出来ず、会員の交流機会を模索していました。

そこで、会員が個人的に撮影に行き撮られた作品をネット配信することで、好きな時間に自由に観てもらえるのではと、今年2月より「フォト39会、フォトけやき会ブログ作品展」を配信し続けております。

月8~10本配信してきて、もうすぐNo.100になろうとしております。

Facebookにも連動しているため、知り合いの写真家の方からお言葉をいただいたりして、今までになかった方からも観ていただきました。ネットの凄さを感じております。

ブログ作品展で発表した作品を次ページでご紹介します。

■添削で講評会

これまでは、スキルアップのため作品講評を撮影会の後、定期的に行ってききましたが、今はそれをする事が出来ません。個人的に撮影に行かれ、撮られた作品を私の方へ個別で送られます。その作品を添削し、会員全員にメールで送ることで、ネットで講評会が出来るようになりました。ただ、文字だけの伝達は一方通行に陥りやすくなり、生の反応がわからず、発信側として物足りなさを感じざるを得ません。

ネットの便利さと臨場感のなさの二面性がありますが、一日も早くコロナ前のように動ける社会になって欲しいものです。

■オンラインによる「けやき祭」

10月に行われた「けやき祭」に軽音楽同好会として出演しましたが、無観客のオンラインでの開催でした。専門業者の方に立派な舞台を作ってください、配信用カメラが回り、スタジオでテレビ出演しているような気分になりました

が、無観客のため無機質な演奏に陥りそうになったのは否めませんでした。

ただ、スタッフ(実行委員の学生さん)の方が最後部で、我々の演奏に合わせ、リズムを取りながら体を左右に動かしている姿に演奏者と観客との間に一体感が生まれた気がしました。

■待ち遠しい対面式

大学の授業もリモートではなく、今までのような対面式授業を誰しもが望んでおられるはずで、コロナ禍の中では致し方のないことかもしれません。

コロナ感染対策を思えば、オンライン式やリモート式だけの方法しかないのが口惜しく思います。ワクチン効果だけではなく、完治する治療薬の開発を心待ちにする次第です。

写真クラブの講評会も早く対面式で行える時期が来ることを願っております。

■解除後も規制

この原稿を書いている時は、コロナ感染者が減少してきて、緊急事態宣言、蔓延防止等重点措置も解除され通常に戻りましたが、感染の脅威は完全になくなったとは言い切れず、今冬第6波襲来も言われ、規制の中で生活することを余儀なくされています。

私は毎日のように梅田へ出かけます。解除されたとはいえ、時短慣れの影響か居酒屋やレストランなどへお客さんが戻っているかと言えば以前の半分以上のように見えます。

■軽音楽同好会の今後の活動

従来の大学構内での合同練習は出来ないため、公民館のスタジオなどを利用しての練習や、個人的に個別レッスンを受けながらスキルアップしていくつもりです。

2022年7月22日(金)に実施予定の兵庫県立芸術文化センター小ホールでの「サマーライブ」に向けて年明けから練習をしていきます。

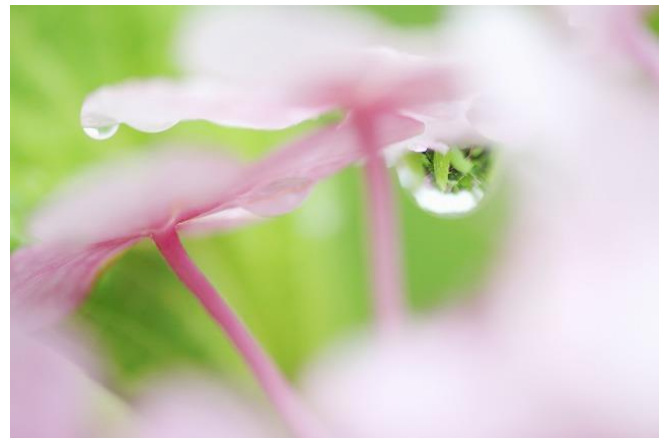
コロナを気にすることなく開催できることを切に願っております。

2021年6月～8月「フォト39会、フォトけやき会ブログ作品展掲載作品」

※[photo39-2019](#)でご覧になれます。



6月6日 宝塚市 「西谷の森公園」



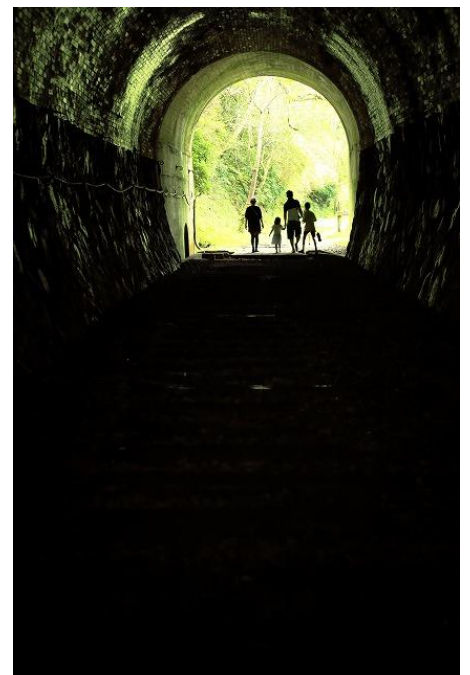
6月20日 宝塚花のみち「アジサイの水滴」



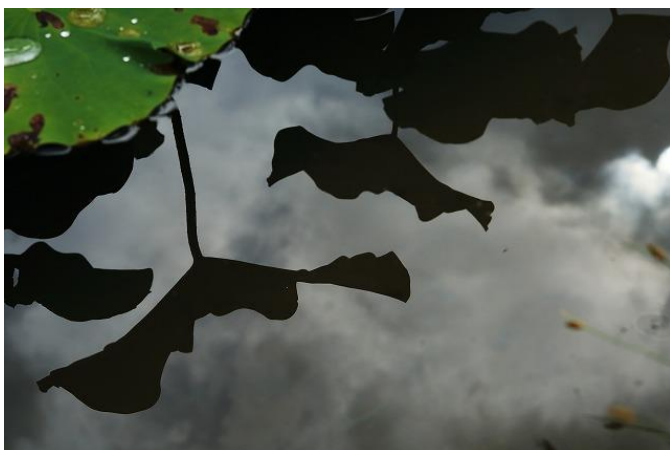
6月20日 宝塚花のみち



7月17日 姫路ヤマサ蒲鉾



8月24日 武田尾廃線跡トンネル



7月17日 平池のハス映り込み



7月25日 小野ひまわりの丘公園

2021年9月～10月「フォト39会、フォトけやき会ブログ作品展掲載作品」

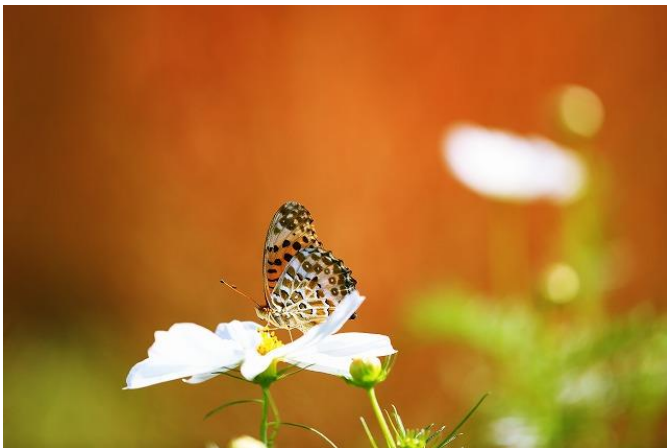
※[photo39-2019](#)でご覧になれます。



9月13日 奈良公園「興福寺前」



9月25日 亀岡市「運動公園球戯場前」



10月4日 奈良県「馬見丘陵公園」



10月15日 三田市「波豆川」



10月4日馬見丘陵公園



10月5日 神戸元町高架下



10月15日 三田市「波豆川」

「緊急事態宣言」解除も自粛生活

国際文化学科2年 鈴木 好夫

繰り返される政府の「緊急事態宣言」の期間中、大阪府では「緊急事態措置に基づく要請」により「府民への呼びかけ」（特措法45条第1項に基づく）が実施されていました。

このご時世、新型コロナウイルスに誰もが感染したくない、他の人に感染させたくない。

そのためにも、高齢者としてお上の方針に従った自粛行動をとることにしていました。

◆不要不急の外出は自粛すること

混雑した場所への外出は半減すること

「医療機関への通院、食料、医薬品、生活必需品の買い出し、必要な職場への出勤、屋外での運動や散歩など、生活や健康維持のために必要なものについては対象外」とあります。

健康維持として必要な医者通い（整形、内科、歯科）、食料品の買い出し（スーパー）、そして公園の散歩に励むことにしました。公園の内周コースは約5000歩、自宅からの往復を入れると約7000歩と適度な運動になります。



◆重症化リスクが高い40代50代の方は、特に感染防止対策を徹底すること

高齢者の大半がワクチン接種を終えているので次は働き盛りの40代50代と言うことなのでしょう。感染防止対策は、マスク、手洗い、うがい、除菌など、特に言われなくとも、皆さん普通にやっていると思います。3回目のワクチン接種の計画がありますが、副反応のことを思うと本当に必要なのでしょうか。

◆不要不急の旅行など都道府県間の移動は極力控えること

コロナ騒動が始まって以降、あれほど好きだった旅行も全く行く気も起こりませんし、所用で出かける移動手段もほとんど車で、大阪市の敬老パス（1回50円）がありながら電車バスなど全く乗らなくなりました。長女家族（孫達）に会うために「なにわ」ナンバーが奈良に行くことさえ気にしていました。最近、テニス同好会で猪名川公園（尼崎市）に行きますが、何故か県境になっている猪名川にかかる新南園橋を渡っても府県間の移動にならず、公園のテニスコートは大阪府豊中市になっています。



◆要請に応じず、酒類やカラオケを提供している飲食店等の利用を厳に控えること

—飲食店への要請（特措法45条2項）—
酒類やカラオケを提供する場合は休止で、提供しない場合は時短の要請になっていました。不要不急の外出を自粛していることから、飲食店を利用することもなくなっていました。

—飲食店以外の要請（特措法24条9項）—
商業施設などは一時期休止をしていましたが、ある時期から時短の要請になっていました。運動・遊技施設（体育館、屋内テニス・・・）の営業も休止から時短の要請に変わり、解除後は自由に利用出来るようになりました。

~~~~~

4回目の「緊急事態宣言」が解除され、新型コロナの感染も下火になりました。しかし完全に収束したわけでもありませんので、しばらくは変わらず自粛生活を続けていくのみです。春になったら大学の授業が始まるのか？ いつになれば安全な旅行を楽しめるのか？ 早くその日が来ることを願って、健康と体力維持に努めるだけです。若い先短い高齢者にとっては・・・。

## シニア専修コースの活動の一部を本にしました

研究生 阪田 正樹

最近よく夢をみます。シニア専修コースでの楽しかった日々。

学園のバスではフィールドワークということではいろんなところへ行きました。

徳島の鳥居龍蔵記念博物館、淡路島のおのころアイランド、龍野での柳田国男の生家、モンゴル王国行きでの出石そば屋で香住鶴（お酒）を飲んだり、岐阜のリトルワールのドイツ館でソーセージをあてにドイツビールを飲んだり、アフリカ館ではワニの串焼きを食べたりで、行った先でお酒を飲んだことしか記憶にありません。

バスを利用しなくてもフィールドワーク？？にいろんな所に行きました。コリアンタウンでは専属の方に説明をしていただいて、そのあとマッコリを飲みました。また7月の暑い時に、国立民族学博物館に行き、各国の料理をそろえたレストランで会食して、その後、河合先生ご子息のお話を聞きました。ほかにも宝塚の山本で韓国寺を訪問したり、神戸元町の関帝廟へ行ったあと中華街で一杯やったり、ペーロンの町相生にも行きました。またベトナム料理を食べにも行きましたし、有馬温泉も行きました。

コロナ禍での2年間、台湾にも行けず、園田学園にも行けず、人混みを避けて、自粛を続けていました。

家で“孤独のグルメ”や“チョコちゃんに叱られる”“ブラタモリ”などテレビを見ることしか出来ませんでした。

そこで園田学園のシニア専修コースで何をしてきたかを今一度振り返りました。

発表会や講演会、交流会などをしましたが、まとめようと思ったところ、自主出版もいいかなとなって今回作りました。

ほとんど台湾関係ですが、“台湾の人は親日か”シリーズ1, 2, 3を掲載や発表をしました。

結論は中途半端な“マーブル色ということになりましたが。

テレサテンや客家文化のことも書かせていただきました。

また、台湾留学生との2回の交流会やミャンマーのNPOの人を招いてミャンマーの軍事クーデター前の平和な時の講演会もしました。

全69頁の本を作りましたので、見ていただける方はご一報ください。

表紙はこうにしました。

### 私のフィールドワーク

In 園田学園女子大学 シニア専修コース

阪田 正樹

令和3年12月1日



台湾 総督府

費用については昨年の給付金の残りを充てています。

国際文化研究での授業では河合先生や受講生の方々、また交流会や講演会に参加して頂いた方々に感謝しております。



# 我が家にやって来た<sup>え</sup>画

## 平和を求めるアウシュヴィッツからの証言

文学歴史学科2年 河田かつのぶ

### 画家・コシチェルニアクのこと

そろそろクリスマスだという時期になると、我が家では例年、幼子イエスとマリアとヨセフを描いた『聖家族』を飾る。この版画は、ポーランドのミエチスラフ・コシチェルニアクという画家が、アウシュヴィッツ収容所の屋根をふくトタン板に刻んだ、縦9.7×横7.7cmの小さな版画だ(右上写真)。

コシチェルニアクは第二次世界大戦で、ドイツに対するレジスタンスに加わって捕らえられ、アウシュヴィッツ強制収容所に送られる。そこで、偶然に画才を認められ、収容所でシラミ退治用の『シラミ1匹、お前の死』など、囚人向けポスターを描かされた。また、監視の目を盗み描いた収容所生活の作品が左下の絵『もはや希望なし』(1944年)だ。疲れ果て衰弱した人たちは体を温めようと腕を組み、上体を屈めて絶えず体を揺すっていたという。

### 平和を求める、アウシュヴィッツからの証言

キリスト教徒でもない我が家にこの版画が届けられたのは、今から35年程前だった。話は飛ぶが、国連総会は創設40周年を機に、1986年を「国際平和年」とした。それに応えて各国政府や国民の支持のもと、さまざまな取り組みがなされた。大阪では府知事や大阪市長などが呼



びかけ人となり、「国際平和記念・ビーす is おーる展」が開催された。「平和こそすべて」「平和のためのあらゆる力を」の願いをこめた催しだった。主には、「アンネの日記」など

の遺品と写真展示、アウシュヴィッツ収容所からの奇跡の脱走者であるシマンスキーさんの証言を聞く会だった。

シマンスキーさんの腕にはアウシュヴィッツ囚人番号20034号が彫られていること、仲間の囚人の身代わりとなったコルベ神父のこと、収容所でのコルチェルニアクとの出会いを語ってくれた。そして「すでに戦争が終わり40年(当時)経つが、あの忌まわしい過去をなぜ語り続けるのか。それは、収容所にいた頃、仲間が親衛隊に銃殺のために連行されるとき、『いいか、ここで起こっていることを世界中に知らせろ、忘れるな』と叫んだからだ」と語った。

### 版画との出会いを作ってくれた父のこと

コルチェルニアクの版画と私との出会いは、アウシュヴィッツ博物館の元副館長だったシマンスキーさんが来日に合わせてコルチェルニアクから託された版画17点を大阪に持ち込み、展示が実現したことから始まる。

この国際平和記念展には、私が当時勤務していた小さな研究団体も協賛し、催しの後、版画は各協賛団体に引き取られ、アウシュヴィッツと関わりなさそうな『聖家族』の版画が私に届けられた。それは、今生きていれば100歳を超える私の父が戦前からのクリスチャンで、父の讃美歌には『君が代』が載っており、苦しい時代だったことを私が語っていたからだと思う。

\*この版画の原版は私の娘が住む、山梨県北杜市のフェリア美術館に所蔵されており、3年前に原版と出会えた。この作品は日本に数点しかないという。



## 私とフィールドワーク

研究生 中村 米三郎

**私** は、傘寿を数年前に通過、米寿に向けて幸いにも活動を続けていますが、その源は何なのか、とふと思いました。それは、趣味といってもよいかわかりませんが、「何なのか」を考えてみようと思いました。仕事として、趣味として55年の長い間、私の活動を支えてくれた「IT」は間違いない。では、それだけなのか。

**平** 成22年4月、70歳になった私は、シニア専修コース国際文化学科に入学し、3年の時、「国際文化演習(1)」を受講します。この講座は「フィールドワーク」を対象にした講座でした。これがその後も続く、私と「フィールドワーク」の出会いになりました。指導教官は、河合教授(当時、これ以降河合先生と呼ばせて頂きます)でした。

**3** 年の時、河合先生の指導を受けながら、初めて「フィールドワーク」を行います。場所は、石切神社で有名な石切と「難波門こぎ出でみれば神さぶる生駒高嶺に雲ぞたなびく」と万葉集で謳われている生駒です。

河合先生と一緒に私は後ろの方を歩いていました。河合先生は、店に立ち寄り、道行く人と

話をされたりして、なかなか前に進みません。前の方から「早く歩いて下さい」と催促がきますので、河合先生に「なんでもよくご存じなのに、何のお話をされているのですか」とお聞き

します。「少しでも疑問があつて、機会があれば教えて貰っています」と答えられます。

「足を使い、眼で見て、耳で聞く」という考えに基づいて行う「フィールドワーク」ですが、「フィールドワーク」の意味が少し分かったように思いました。

**研** 究生1年の時は「国際文化演習(2)」、2年の時は「国際総合研究」、3年からは研究生科目として開講された「国際文化研究」を毎年受講します。そして、「フィールドワーク」づきの年が続きます。

**で** んぼの神様石切神社、現世利益で信仰を集める生駒聖天、福德開運の毘沙門天を祀る朝護孫子寺など民族宗教のメッカ生駒を一人でよく歩きました。

この生駒のフィールドワークを河合先生の講座で発行されている『旅とフィールドワーク(2号)』に「祈願の山から慰霊の山へー生駒の神々はどうのように変わったか」を掲載して頂きました。

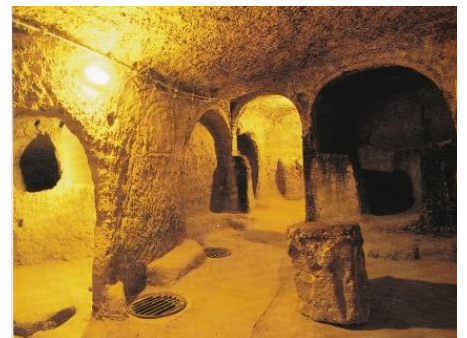
「**ト** ルコに行きます」と河合先生にお話すると「トルコに行くなら、フィールドワークとして行きなさい」とアドバイスを受けます。トルコについて調べます。ローマ帝国時代のカッパドキアの巨大な地下都市と近代トルコ成立時に行われた「ギリシャ・トルコ住民交換協定」を知り、「人間にとって宗教とは何か」という疑問を持ちます。

地下都市

「カイマルク」を体験する、トルコ人とギリシャ人は外観から見分けがつくか、というテーマを持ってトルコに行きます。



生駒聖天



カイマルクの地下都市

このトルコのフィールドワークは『旅とフィールドワーク(3号)』に「カッパドキアの地下都市にみる人間と宗教—小アジアにおける旅とフィールドワーク」として掲載して頂きました。

「**大**阪生野コリアタウン」、「神戸のインドを巡る」「宝塚の韓国寺と最明寺川流域」「神戸の外国寺院を巡る」等のフィールドワークを河合先生と講座の受講生と一緒に、また一人で何回行ったか分からないほど行いました。

「大阪生野コリアタウン」に初めて行くとき、

河合先生に声をかけます。

河合先生から、シニア専修コースで教えて頂



大阪生野コリアタウン

いていた「K先生に会ってから行きなさい」とアドバイスを受けます。K先生にお会いして「大阪生野コリアタウン」のポイントをいろいろ教わりました。

また、「大阪生野コリアタウン」を理解するうえで、高賛侑著『コリアタウンに生きる 洪呂杓ライフヒストリー』エンタイトル出版、金賛汀著『異邦人は君が代丸に乗って—朝鮮人街猪飼野の形成史—』岩波書店は非常に参考になりました。

「**多**聞天」は「毘沙門天」の別称であり「毘沙門天」は「多聞天」と同尊であるということに疑問を持ち、

「毘沙門天」が設置されている寺院等があれば、一人で「毘沙門天」フィールドワークを行っています。この

フィールドワークは『けやき便り第18号』に「毘沙門天の別称多聞天に関する考察—社会科学に関する一つの疑問」として掲載して頂いています。

今でも、「毘沙門天」が祀られている寺院やお堂があれば、できる限りその寺院を拝観させて頂いています。

**私**の今の活動を支えている源は、「IT」以外にも「フィールドワーク」があると思いました。「フィールドワーク」は、私の活動の幅を広げ、健康寿命の維持に役立っていることには間違いなく考えています。

**数**年前から国際文化学科研究生科目「国際文化研究」の受講を中断、またコロナのこともあり、この数年間、仲間と一緒に組織的な「フィールドワーク」を行っていません。

皆さん、「フィールドワーク」をしませんか。

\*当投稿には、『旅とフィールドワーク(9号)』に特別寄稿している「フィールドワーク讃歌」と一部重複している文章があります。



信貴山 朝護孫子寺

# コロナで自粛中 なにをしたの？

研究生 峠田 桂子

コロナの自粛生活で何をしてきたのか？

シニア専修コース、私的ボランティアの各理事会はほとんど休会。住まいの理事長役の仕事だけは休みなし、毎月楽しみのサロンも休会で、人と会話をすることがない。では、この期を有効に使おうという思いで、以前から考えていた「我が生い立ちの記」を書き始めたが、そう簡単ではない。多少下調べのための外出も必要であるため、途中で進めなくなっている。面白くない仕事だけが残っている。それは種々の片づけ。

書類、書籍、多種多様な物品で雑然として、すっきりとした空間がない。書籍は玄関の収納場所までも占領しているが、気分が落ち着けるように、本格的に片づけを始めた。まず活動中のボランティアに必要であった書類は、内容を選択しシュレッダーにかけ、ファイルをし直す。

次は書籍だ。まずは本屋から書籍処理の仕方を教わり、搬出先が明らかになってきたので選別が容易になった。種々資格取得のための書籍、参考書は廃棄。読みたいと思って購入したがしっかり読んでいない書籍、その他学習書でもう一度学びたい、読みたいが見え隠れして残したくなるものがあり困る。

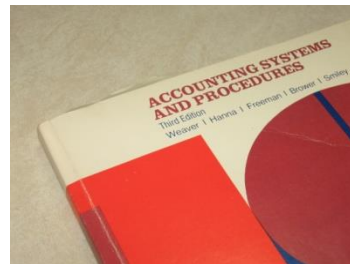
途中、絶対丈夫であると自信があった身体に思わぬ故障が出た(第12胸骨圧迫骨折)。しばらく身動きが取れない状況であったが、2ヶ月後リハビリと称し、書籍ならと体調をみながら大丈夫と思ったがなかなか進まない。

人生の上で必要とした書籍に感謝し、頂いた方々に心の中でお礼をいって別れたい。公認会計士の方から、ご自分が勉強された書物を何冊か頂いた。監査事務所のパートナーか

ら、海外企業会計実務等を、また当時の上司から米国で学ばれた英文会計の教科書をコピーして、会計スタッフに講義までして下さったことに感謝したい。長らく仕事上で大変助けられ生きる糧となった。

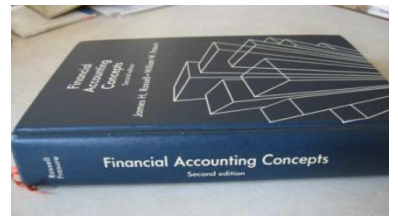
まだ手放したくない教科書がある。

1970年後半 Accounting Text Book, Financial Accounting Concepts, Gregg Shorthand、英文速記テキスト(どれもUS版)と赤ペンだらけの私のノート、海外への



ビジネスレターの書き方など数冊があるが、どれも仕事をしながら自ら学んでいた教科書である。つい分別中にページ

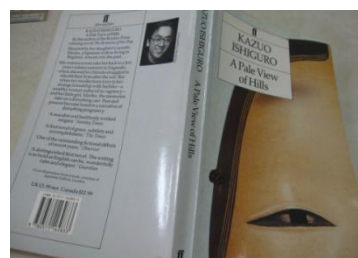
を繰ってしまう。当時は難しいと思って読んだが、今となっては面白く、よく理解できるように編集されていると感心し、手離すのが勿体ないと思う。



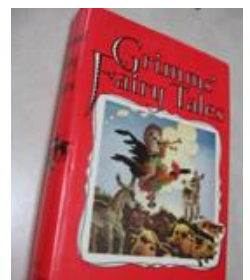
もう一度読みたいおとぎ話、文学書は購入しながら十分読んでいない本もあった。神戸で購入した Kazuo Ishiguro の1982年出版された作品“ A Pale View of Hill”があった。

表紙は能面が1/4の写真、わら半紙と思える上に物語は印刷されて、もう端の方は茶色をおびていた。登場人物は日本人、背景や心理を読みたい。

日本昔話とグリムのおとぎ話の違いを読みたい。



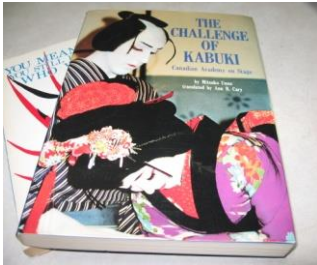
処女作 女たちの遠い夏



グリム童話

日本語文化教育に貢献された本がある。

The Challenge of Kabuki、神戸勤務時代、応援していた神戸のアメリカンスクールの学生さんたちが、歌舞伎上演に挑戦した一部始終を語ったもの、その英訳台本。演じられた学生さん達は日本とのかけ橋になってくださったと思う。今どうしておられるのでしょうか？

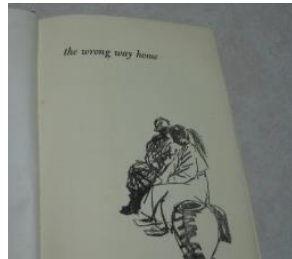
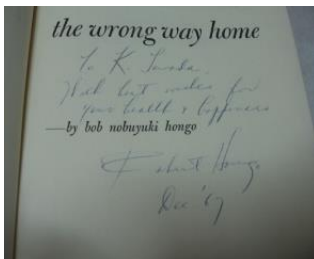


歌舞伎に挑戦



上演舞台

The Wrong Way Home “家路知らずとも” 朝鮮戦争後の物語を書いたもの。映画にもなった作品もあった。関西の私立大学で、英語演劇祭で日本昔話「おんによろ」「なまなげ」を英訳されたシナリオがある。著者の作品は出身大学に残されていると聞きました。USに帰国まで英語教育に尽くされていた。



家路知らずとも

著者の署名がある書籍はまだ処分しない。興味があり、講演や直接お会いして話を聞き、深く理解したいと購入、著者から署名を頂いたものなど。建築家の本は図面や写真を見てその風景を想像するのは楽しいし、歴史上の人の物語は、知らなかった過去の日本の事情を再認識させられた。

シニア専修コースの資料は、入学から研究生まで私にとっては近年の資料として学習の途上であると思っているので、ゆとりを取って並べたい。約幅3mが必要だ。楽しい資料と作品がある

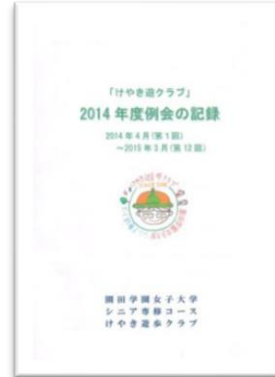
クラブ活動のけやきITを楽しむ会

(学ぶことが一杯ある)

けやき遊歩(歴史探訪興味津々)

けやき編集(学び場の状況を知ること、  
学習者の交流の場でもある)

私の作品も(卒業作品 長江三峡クルーズ  
上海 7泊8日の旅)

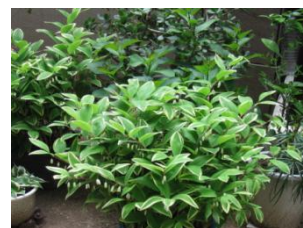


けやき遊歩クラブ



長江三峡クルーズ

両親が残した遺品を通じて伝えきれていない物がある。父の大正、昭和時代の勤務先会社の資料となるだろう印刷物、写真等がある。母のブロマイド(女優業昭和一桁時代)や短歌集。どれも姪や甥達へその時代の状況など話し伝えたいが、現在と将来に向けての学びで一杯、過去のことなど見聞きはしたくないのが本音であろう。彼等に身近な人の歴史を伝えることが出来ないことはさびしい。私が書き始めた「我が生い立ちの記」も読んでほもらえないかな？



母に残した鳴子百合



早く爽やかな空間で、読書や思考の時を持ちたい。疲れが出て片付かない。仕方がない。ゆっくりとワインで一息しようと思いコルク抜きを刺したが力がなくて抜けない。そのまま冷蔵庫へ戻し、今日はこれまでか・・・

## コロナ禍とケーキ

研究生 高山 純子



シニア専修コース休講も2年目に入り、マスクと自粛生活が日常になってしまった。

しかし、昨年は中止になった尼崎市民大学が今年は6月から開講されることを知り、申し込むことにした。1か月に2回で地区ごとに内容が異なり（尼崎市はいくつかの地区に分かれていて、それぞれに生涯学習プラザがある）、毎回テーマも違うのだが私は立花市民大学を選んだ。興味のあるテーマが多かったのと1回だけが吉村先生の講義が含まれていたからである。立花地区は園田学園女子大学のある地元なのでそうなのだろう。

そして久しぶりに吉村先生の講義を聴くことができた。いつもの形式のプリントが懐かしく思われた。

11月には「洋菓子の歴史」というテーマで「エーデルワイスミュージアム」を見学した。「エーデルワイス」は1966年創業の洋菓子メーカーで現在本社が神戸市だが本社工場は尼崎市にある。数十年前は市内に店舗がいくつもあり、よくケーキを買ったものである。今では「アンテナール」・「ルビアン」他のブランド名で百貨店などに出店している。

「エーデルワイスミュージアム」は本社工場の4階にあり、創業以来、欧州をはじめ世界各地から収集した製菓道具や書籍などを展示している。洋菓子文化を語る上での貴重なコレクションは現在5,000点ほどになるそうである。

ベルギーの美術館から譲り受けた欧州の文化資料やチョコレートやクッキーの型・製パン器具・食器などで、貴族が使っていた食器には銀製で金メッキというのもあった。銀を使用したわけは、毒を盛られたときにそのことがわかるようにするためなのだろう。

珍しかったのはワッフルの型で、今は格子模様が定番となっているがその昔は様々な模様の

型があったようだ。この型は重いらしい。案内係の人に促されて男性の受講生が試しに持ち上げてみたのだが、落としそうになっていた。

その後でピエスモンテの製作工程の動画を見せてもらった。ピエスモンテとはフランス語で小片を組み立てるという意味で、観賞用の工芸菓子のことだそう。和菓子の工芸菓子は見たことがあるが、洋菓子では珍しいのではないかな。



菓子材料のみで作る、自然乾燥させる。小さいパーツは別に作って固めてくっつけていく。高度な技術が必要で、気の遠くなるような作業である。完成まで数か月かかることもあるとのこと。この技法は次の世代に伝えるべく、創業者から現

在の職人さんにまで継承されてきたという。

2008年の姫路菓子博に出品した帆船・日本丸をかたどった作品が展示されていた。私はこの菓子博を見に行ったのだがこれがあったかどうか覚えていない。

工場見学で甘いチョコレートの香りを満喫した後、併設の店舗で何人かがケーキを買っていた。私も買うことにした。コロナ禍以前はよく友人とお茶を飲んでケーキを食べながらおしゃべりをしたものだ。ケーキも長い間食べていない。黙食、アクリル板越しの会話も窮屈で味気ない。コロナ禍はこんなささやかな楽しみも奪ってしまったのだ。自宅で食べたとはいえ久しぶりのケーキはと〜ってもおいしかった！

気軽に花茶してケーキを食べ、おしゃべりができる、そんな日が1日でも早く来ることを願うばかりである。

※写真はミュージアムに展示されていたピエスモンテ  
参考文献：見学時のパンフレット

「エーデルワイス」ホームページ

コロナ禍で

# つながる・学び合う

## 「よもやま話の会」報告3

文学歴史学科3年 櫻井 秀也

文学歴史学科2年 河田かつのぶ



集まろう！話をしよう！

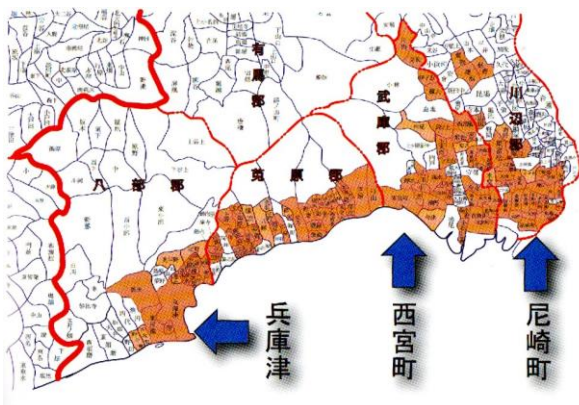
前号では第6回(4/7)までの「よもやま話の会」を紹介しました。その後、第4波でコロナ感染者数が増加したため、ひとまず休止。7月に再開するも、すぐに第5波がやってきて、ようやく収束が見えた10月からまた再開に漕ぎつきました。以下第7回以降の活動報告です。

**第7回は、尼崎市立歴史博物館の室谷公一さんから「江戸時代の尼崎藩主」のお話を聞きました。** (2021. 7. 1)

第5回で好評だった、「江戸時代の尼崎藩と尼崎城」に続く企画で、幕藩体制下での歴代尼崎藩主の変遷とその背景のお話でした。

大坂の陣の2年後、元和3(1617)年から寛永12(1635)年までの12年間、譜代大名である戸田氏鉄が5万石大名として尼崎藩主となります。

尼崎藩の重要な役割は、大坂の西の守りでした。当時の尼崎藩領は、東は川辺郡神崎村から西は八部郡西須磨村までの海岸線一帯で、山陽道から大坂へ向かう陸上交通の要衝です。さらに、藩領の兵庫と西宮は海上交通・交易として



戸田氏時代の尼崎藩領 (尼崎市教育委員会)

重要な場所だったのです。そうした意味で、戸田氏鉄は裕福な藩主だったということです。

その後、寛永12(1635)年から宝永8(1711)年まで、4代の青山氏が藩主となります。続く、譜代大名である松平氏が7代にわたり幕末まで藩主を勤めます。ところが、藩の領域が明和6(1769)年に大きく削られ、藩領の海岸線一帯は幕府領となり、播磨国の山間地を与えられます。結果、松平忠告以降、経済的には厳しい藩になったのです。しかし、西の守りの役割を担い続けた藩だったのです。

お話の後、企画展「尼いも復活物語」を見学しました。

**第8回は、櫻井秀也さん(文歴3年)から『カカ・ムラドーナカムラのおじさんー中村哲についてー』と題しての話。**

(2021. 7. 21)

カカ・ムラドとはアフガニスタンで“おじさん”といった意味です。干ばつで苦しむアフガニスタンで現地の村人とともに用水路をつくり、砂漠化した土地を緑の畑にすることで、多くの人々を飢餓や貧困から救った中村哲医師に対し、村人が親しみを込めてつけた愛称だそうです。

2019年12月に凶弾で倒れた中村哲氏の73年のあゆみを振り返り、彼の人柄や思想、その基となった生い立ちなどを振り返ります。

また、アフガニスタンについて理解を深めるため、1979年のソ連のアフガニスタン侵攻に端を発し、その後アメリカの介入やタリバンの台頭など、現在に通じるアフガニスタンの歴史についても解説がありました。

この日参加された馬場さんからは、息子さんが、2002年当時、ジャララバードで中村哲氏らの用水路建設チームの一員として働いたことがある、というお話がありました。何という偶然！馬場さんから、その頃の息子さんの手記の紹介があり、馬場さんの中村哲氏への「思い」についても話して下さいました。



第9回は井上聖明さん（研究生）から『龍を追いかけてー龍とは何かー』のお話です。

(2021. 10. 26)

井上さんは2019年に相生フィールドワークを行い、ペーロン祭りについての学びを始めます。そこで「龍」に「はまった」井上さんは、龍を探し求めて京都、奈良、神戸の神社・仏閣・街中を巡り、その特徴や違いを見つけます。そして、ついに「龍とはなんぞや」ということを深く考え、世界の「龍」の起源、さらに「龍と棲む地球」にまで考えを巡らせるのでした。

井上さんが言われるように、「とにかくどこかしこに」いて、そして「洋の東西を問わず今も地球に棲みついている」龍！

当日配布された資料は、「龍との出会い」「龍にはまる」「龍は大阪でも」「龍と棲む地球」の4部作で、たくさんの龍を写真で確かめることができました。



建仁寺の天井画「双龍図」

私達も「どこにでも棲んでいる」龍を思い出し、井上さんのお話しと合わせて、想像力を掻き立てられたのでした。

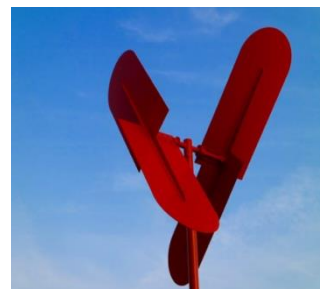
第10回は木村英助さん（研究生）の案内と解説『神戸ミュージアムロードの散策』です。

(2021. 11. 10)

木村さんはこれまで、神戸の歴史や観光資源について学びを続けてこられました。そうした



兵庫県立美術館  
ヤノベケンジ作  
「サン・シスター」



兵庫県立美術館  
新宮晋作「遥かなりズム」

学びは、神戸八社巡りや、神戸の外国人宗教施設巡りなどとして、実現してきました。

この日は、阪急王子公園駅からJR灘駅、阪神岩屋駅を南下して、兵庫県立美術館まで、「ミュージアムロード」1.2kmの散策です。

神戸文学館・横尾忠則現代美術館・兵庫県立原田の森ギャラリーそして、点在するオブジェなどを木村さんの案内でゆっくりと歩きます。

途中阪神岩屋駅近くの「畝馬（みぬめ）神社」をたずね、花木名誉宮司さんのお話を聞かせていただきました。畝馬は古くから万葉集にも詠まれ、「畝馬の泊（とまり）」という有名な港があり、中国（遣隋使や遣唐使）や新羅などとの古くからの国際拠点でもあったのだそうです。

お昼を「JICA 関西食堂」でとったあと、県立美術館周辺のモニュメントを木村さんの解説で歩いて見て回り、安藤忠雄の展示棟を最後に解散しました。

見学科ゼロ、見どころ満載の見学会でした！

第11回は、

① 小笠原昭博さん(文歴2年)から、「**西難波ギターサークルの活動紹介 DVDとの合奏や鑑賞**」と題してお話と演奏がありました。

(2021. 11. 17)

小笠原さんは20年の単身赴任を終えて尼崎にもどり、時間的な余裕ができたことから、「何か」を求め「ギター教室」にたどり着いたのだそうです。



ギターサークルのDVD演奏をバックに、  
合奏する小笠原さん

DVDでは小笠原さんを含めたサークルの方々による、「今日の日はさようなら」や「遠い世界に」「ルージュの伝言」などの我々に親しい“名曲”が流れ、ハンドベルも加わって盛り上がりました。もちろん合奏後は小笠原さんのソロ演奏も披露いただきました。

小笠原さんは「腕前はまだまだ」と謙遜されますが、演奏からは練習の成果とともに、誠実でやさしい人柄が伝わってきます。披露された曲はどれも懐かしい曲で、皆で一緒に口ずさみました。

② 早田周一さん(研究生)から「**映画の歴史と観方**」のお話をいただきました。



早田さんは若い頃から映画に興味を持ち、「自称、淀川長治の弟子だ」と言います。

今回は、「活動写真」「キネマ」

「サウンド・トラック」「シネラマ」など、映画の定義にはじまり、「シナリオ」「カメラワーク」「編集」など映画製作の基本や「プロデューサー」「監督」「カメラ」「オペレーター」の役割など、興味深いお話がありました。

映画の歴史については、トーマス・エジソン以降、ハリウッド、チャップリンなどのスターや著名な監督などの紹介を。

いよいよ映画の楽しみ方や大好きな作品の紹介がはじまり、「卒業」(1967年)の主人公の最後のバスの中での「顔のアップが」・・・というところで今回は時間切れとなりました。残念！

残りは次回のお楽しみとなりました。

第12回は、橋本秀明さん(研究生)の案内で、尼崎南部にある「**尼ロック**」を目指しました。

(2021. 12. 1)

「尼ロック」は日本で最初のパナマ運河方式の閘門(こうもん)と呼ばれる防潮堤であり、昭和30年(1955)に造られて、その後増改築されています。2つの水門を開閉し、河側と海側の前後の扉を開閉することで海水が運河に流れないように水位調節をしながら、500総トンクラスまでの船舶が通行できるのだそうです。同時に「ゼロメートル」のこの地域の高潮・台風などの治水対策としての役目も担っているということです。

天候にも恵まれ、阪神尼崎センタープール前から「道意神社」、「出会い橋」、「中堀運河」沿いを歩いて尼ロックへ。川に浮かぶ鴨たちや海べりの消波ブロックの上にたくさん集まった鵜を楽しみながらたくさん歩き、適度な空腹を抱え、見学後の昼食会へとなだれ込みました。

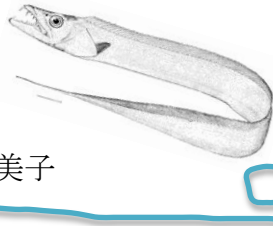


後ろは「尼ロック」のコントロールセンター

## 《ざっきちょうから》

## 初めての太刀魚

研究生 金森扶美子



この歳（どの歳？）にして初めて太刀魚なるものに挑戦した。お向かいのお兄ちゃんが海で釣ってきた新鮮な太刀魚をお母さんがさばいて持ってきてくださった。が、太刀魚？ ダメダメ太刀魚はだめ！ 私には太刀魚は恐怖のお魚だ。

24年間北陸の小都市で育った私は太刀魚なるものを見たことがなかった。もちろん食卓にも上った記憶もなかった。それが結婚して初めて県外に出た九州博多の借家の和室で、壁に1〜1.5センチぐらいの銀色をした虫が幾数匹かよく這っていた。見たこともない得体の知れない銀色のキラリと光る這う虫の不気味さに恐怖した。

その虫とダブってみえたのが初めて店先で見た太刀魚だ。もともと爬虫類が苦手な上に長〜い蛇が苦手。太刀魚は長〜い上に銀色に光っている。なんだ、この魚は！ ウミヘビか？ うつぽか？そしてこのヒカリ具合は。君子危うきに近寄らず。見る気にもならず、買う気にもならず、食べる気にもならず。

そんな私に太刀魚が目の前の現れたのである。見るのも嫌で、訳を話して持って帰って！と言ってはみたものの、折角良かれと思って親切に持ってきてくださったのだ。大人の対応でやっぱり挑戦してみるわといただくことにした。

さて、それからがたいへん！ ビニール袋に入ってる太刀魚クン、どうして取り出すべきか。50センチほどあるぞ、まな板の上に放り出す。ゾゾッとする。釣ったばかりの新鮮な太刀魚クンのヒカリ具合がまた強烈！ 横に長くついているヒラヒラのヒレまで長く光る銀色だ。

幾つか切り身にしたらいいいというので、包丁を入れるが、細い割には骨が簡単に切れない。

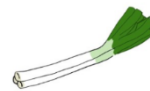
わあ、手で押さええないかんやん、触るのいややなあ、三切れだけは食べてみよう、あとはさよならだ。手で持つのは嫌だから、箸でレンジに置き、焼く。ヤレヤレひと仕事終わった。

さて焼けました。焦げ目が着いたので銀色が薄くなりました。ポン酢で食べればいいとのことで、白身は淡白で……でもなんやねん、この薄っぺらい身の付き方、食べ甲斐のない身やね。面倒な身やね。意外と魚の食べ方は上手いほうなのだが、きちんと食べる気もなく、またどうしても食べたいもんとは違う——というのが太刀魚初体験。なんか気持ちの中では大格闘した割には……もうちょっと身がコロッとして食べ甲斐のあるお魚さんがいいです。

苦手な魚は他にもある。サバ（鯖）だ。あのやはり蛇にも似た模様と小さな頃に刷り込まれた「アニサキス」懸念。身もしっかりして味噌煮などは美味しいと思うのだが。



小さい頃から好き嫌いが激しく、ずーっと苦手な食べ物に白葱があり、あのにゆるった



のが苦手で、6年生の頃葱は頭が良くなるというので給食のうどんの白葱に挑戦したが、

どうしても駄目でそれ以来食わずにきた。だから頭はそのまんま。でも他県で青ネギに接してから薬味としては食べられるようになってきた。それが何故か70歳になってから急に白葱に目覚めた。それも関東の下仁田ネギのような太いののである。無性に食べたくなる。特にすきやきがよろしい。またお魚の煮付けに添えてトロ〜としたのもいい。

果物では梨。食べないわけではないが、小学生の頃、梨は糖分と水分ばかりで他の栄養分はない、誰に刷り込まれたのかは知らないが、虫歯になるばかりと聞いた。しかし最近韓流ドラマで梨にはそれなりに滋養があるらしいと知る。



大人になったら嗜好の変わることもある。さて、太刀魚クンはいかに？ 今回は太刀魚の美味しさの分からない人のおはなしでした。

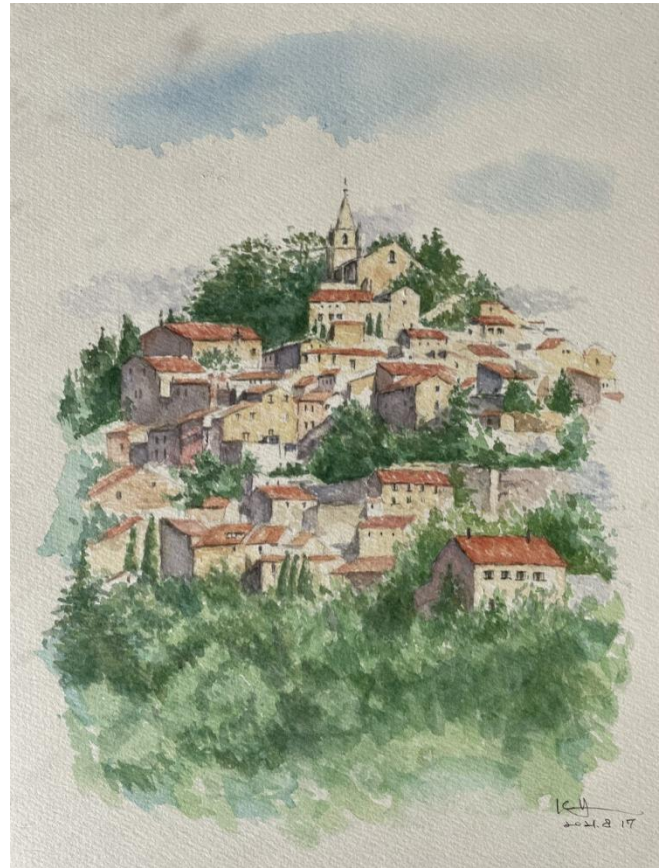
## 私の作品 水彩画

文歴卒業生 山根 邦男



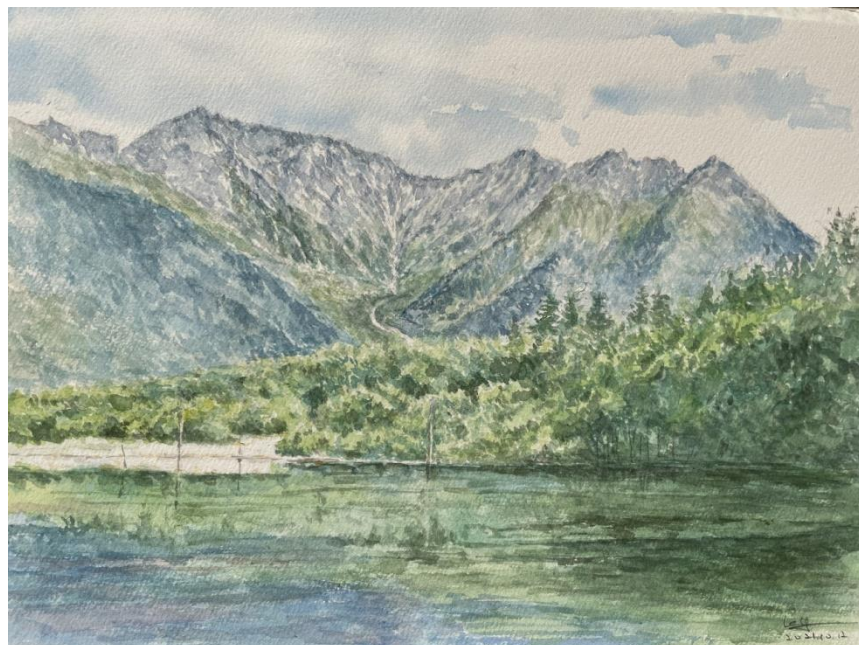
長野 野倉の山里

2021.6.13



フランス ボニュー村

2021.8.17



長野 上高地 大正池

2021.10.12

## クラブ・同好会 状況報告

### コロナに負けず 音楽活動を続ける

#### 軽音楽同好会 現況&今後の活動報告

研究生 木村 勲

##### ◎「練習再開」

学校が休講になって以来、全メンバーで演奏活動することなく、また、合同練習も控えていましたが、ようやくコロナ感染者の減少により緊急事態宣言が解除され、月2回の練習を再開しております。

ただ、練習場所が定まらず、現在は宝塚東公民館、尼崎南生涯学習センター、西宮市勤労会館などを利用しながら、ジプシー状態で合同練習機会を設けております。

大学への入構許可が出ない限り、この状態が今後とも続くものと思われます。

全員での合同練習は、各市の公共施設を利用したりしていますが、各自の練習はそれぞれが工夫をこらし、いつ通常通りに戻っても大丈夫のようにグループごと、また各人で課題を持ちながら練習をしております。

##### ◎憧れの芸文ライブを経験

ライブの実施については、本年7月に兵庫県立芸術文化センター（芸文）小ホールにおいて学校関係者、各クラブ代表の方、メンバーに関係のある人達にお声掛けさせていただき、ライブを実施させていただきました。

感染対策として、密にならないよう座席間を開けていただくご協力をお願い致しました。

ピリピリした雰囲気でしたが、皆様のご協力で無事終わられたことは感謝の一言です。

多くの方に来ていただくことは出来ませんでしたが、メンバーにとって記憶に残る思い出深いライブを経験させていただいたことは大きな

財産となったと言えます。

来年こそは、是非シニア生全員にお声掛けさせていただき、多くの人たちに芸文での演奏を聴いていただければというのがメンバー一同の願いです。

##### ◎オンラインによる「けやき祭」出演

去年は中止された「けやき祭」を今年はオンラインで実施することになったと生涯学習センターより連絡をいただき、軽音楽同好会が出演するかを聞いてこられました。当初は2曲だけの演奏と言われましたが、とにかく出演しようと決め、練習不足ではあるが「出演します」と返答させていただきました。曲選びを進める中、30分の出演枠が出来たと再度連絡があり、それでは新しい今後の軽音の姿を見て、聴いていただこうと女性3人（園田シスターズ）のボーカルを中心にした演奏をさせていただきました。

関係スタッフだけの前で歌い、演奏する初めての経験ではありましたが、大型カメラの前で演奏している自分たちの姿を想像するとTV出演しているような錯覚になり、気分の良いひと時を堪能させていただくことが出来ました。

##### ◎恒例の12月練習成果発表会

12月はこれまで練習成果発表会と称し、音楽室を使用したライブをさせていただいてきました。毎回、多くのシニア生にご来場いただきましたが、昨年と今年は休講状態のため、学内での実施が不可となっています。

そのため、本年はメンバーだけのクリスマスライブを行う予定で、制限なく多くの方に来ていただくことは出来ませんが、練習成果発表をする機会を設けることで、練習の励みにもなり、現在の数少ない練習機会を考えると、コロナが続く限り、今後もこのスタイルが続くものと思われます。

##### ◎2022年7月22日(金) 兵庫県立芸術文化センター小ホールにてサマーライブ実施予定

新年度は通常ライブが行える状態であれば、芸文小ホールでのライブを予定しております。

本年させていただいた以上に、新スタイルの軽音楽同好会「THE GAKU—YOU」の姿をお楽しみいただけるものと信じております。

# 朗読倶楽部「けやき祭」参加と 自粛生活の日々

研究生 原田 稔



昨年から自粛生活の日々を過ごしていた。そこに、昨年は中止となった「けやき祭」が、今年10月29日YouTubeライブによるオンライン開催がされた。そこに「けやき朗読倶楽部」が出演した。出演の決定はほんの1カ月程前。

そこに私を含めて4名が出ることに。他のメンバーはお忙しい。「Zoom」による練習を2回、そして本番に。写真はその時のです。出し物は桂三枝作の絵本『美しく青き道頓堀川』です。YouTubeでの配信を多くの方々に観ていただきありがとうございます。無事に終え参加でき、良かった。心に残ります。

現在は、コロナ感染症の影響下であって、対面での練習が出来ず月2回の「Zoom」で皆さんの推薦された作品を朗読し、楽しんでいます。参加者は10名前後です。

この朗読倶楽部に参加していた事が、私の自粛生活の日々に活力を与えてくれたのは、間違いないです。特に好きだから、とかの目的はなかったが。そして良き方々に巡り会えて。自粛が終わり対面の練習後、皆さんとの飲み会等での楽しみが戻るのを待っています。

このコロナ感染症下での、その他の日々の私の楽しみを少し書いてみます。

多くの友人に会うことが、出来ない事態が続いた。メール等でのやり取りをしているが、やはり対面による他愛もない雑談とかに勝るものはない。

この自粛生活の中、残念ながら数人の友が亡くなった。そんな時、自宅で彼らを心の中から呼び出し杯を傾けて共に楽しむ。

外出も自粛である。幸い近隣にまだ自然が残る。平凡な日々の中で散歩が心を癒してくれる。四季折々の小鳥の囀り、木々と花々が、小さな

庭でも楽しみを

与えてくれる。本当に幸せを感じる日々である。

ここに橘 曙覧（たちばなのあけみ・1812年～1868年福井県）歌人の歌を載せる。

たのしみは 朝おきいでて 昨日まで  
無かりし花の 咲ける見る時

今、コロナ感染症が日本では収まりかけたが新型のオミクロン株が世界で確認。また自粛生活にもどるのか。人類はその行いがコロナに試されているのではと、私は思うがいかがでしょうか。

もちろん毎日でも同じだが、この様な日々では特に明日は・・・と気になる。前記の歌、同様に私が好きな親鸞の歌を紹介します。28歳で亡くなった友が、学生時代に京都青蓮院で私に教えてくれた。私は、彼に平凡だが悔いのない人生であったよと、話せる日々を送りたい。

この歌は親鸞が9歳で青蓮院で慈円に得度を申し込む。伝説では、この時慈円はもう夜であり明日に延期しようとした。この時、明日はどうか分からない。だから今お願いしますと、この歌を詠んだと言われている。

明日ありと思う心の仇桜

夜半に風の吹かぬものかは

依頼されたこの原稿をここに書き終え、非日常の時間を持てた。断わらずに良かった。

余談だが、書くのではなくパソコンのキーを打つのを止めた。昔は手紙、原稿を書き始め「筆を執る」、終わりに「筆を擱く」と表現したものだが。今、私自身手書きの手紙を出すことがほぼ無くなりつつあり、メールでのやり取りは私だけか。

写真上:けやき祭で舞台出演の朗読クラブ

## 校外にてテニス会の実施！

けやきテニス同好会 鈴木 好夫

7月の「軽音楽同好会」の「結成7周年記念プレライブ」に参加していた「テニス同好会」メンバー数人の「涼しくなったら、テニスやりたいね！」がきっかけで始めたのが「校外テニス会」です。シニア専修コースが休講中のため、メンバーが集まりやすい尼崎市内の猪名川公園テニスコートを借りることにしました。

この公園は、猪名川と藻川に挟まれた北東部に位置し、木々も多く、自然豊かな所です。

~~~~~

▶第1回：9月21日（火）12時～参加8名
テニス会の後、猪名川堤防から旧猪名川の利権池もある公園の自然林を散策しました。



▶第2回：9月29日（水）14時～参加8名
残暑厳しい日でしたが、テニスコートの周囲は木々が生茂り、日除けになっていました。



▶第3回：10月14日（木）11時～参加6名
昼前からスタートしたテニス会のため、途中で藤棚のベンチで昼食会となりました。



▶第4回：10月20日（水）14時～参加7名
夏が長く、突然の秋で、急に涼しくと言うよりか寒くなり、服装も長袖に変わりました。



▶第5回：10月28日（木）13時～参加7名
テニス会の前に、猪名川風致公園の旧猪名川を残した池もある自然林を散策しました。



▶第6回：11月11日（木）11時～参加6名
雨上がりで、好天気になるといきや、曇り時々晴れ、昼食時にわか雨と大変でした。



▶第7回：11月18日（木）13時～参加6名
前回とはうってかわって好天気、天敵の強風もなく穏やかな小春日和のテニス会でした。



▶第8回：11月25日（木）13時～参加6名
猪名川公園内には桜並木があり、今は紅葉がとても綺麗です。春の満開の頃が楽しみです。



▶次回：12月1日、16日に開催の予定です。

~~~~~

これからは寒くなりますので「気候に合わせ」「健康を考えて」実施していきたいと思います。

## 「けやき遊歩クラブ」例会を再開

研究生 中村 米三郎

### 1. 運営委員会の開催

コロナで自粛生活が始まってから、ほぼ1年半が経過しましたが、緊急事態宣言等は、9月30日ですべて解除されました。

遊歩クラブは、11月からコロナの感染状況に配慮しながら、活動を再開しても良いのでは、と思い、11月から来年3月まで、「遊歩クラブは如何に活動するべきか」を検討するため、10月16日「ZOOM」で運営委員会を行い、具体的な例会実施計画を決めました。

- ・11月 京都 「嵐山を歩く」
- ・12月 神戸 「ハーバーランドを歩く」
- ・1月 奈良 「春日大社初詣」
- ・2月 休み
- ・3月 大阪 「大阪城お花見」

また、次の例会から損保ジャパンのレクリエーション保険への加入の検討を決めました。

運営委員会の議事内容は、「令和3年度第1回運営委員会議事録」として、10月17日ブログに掲載しました。

### 2. 67回例会「嵐山を歩く」の実施

11月30日、67回例会「嵐山を歩く」を実施しました。参加者は35名でした。

参加者の参加要件は・ワクチンを2回接種後2週間以上経っている方・例会日の当日体温が37度未満の方で体調良好の方・当日はマスクを着用（予備も持参のこと）し、除菌ウエットティッシュを持参のこと、としました。

行程は、阪急嵐山駅に集合～法輪寺～渡月橋～亀山公園（弁当）～大河内山荘です。

「67回例会の記録」として、12月4日ブログに掲載しました。



大河内山荘「大乘閣」前庭にて

## 「けやきITを楽しむ会」活動内容

研究生 中村 米三郎

### 1. 「オンライン勉強会」中心に活動

「ITを楽しむ会」は、2020年10月から第2、第4月曜日にオンライン会議ソフト ZOOM を使った「オンライン勉強会」を開始します、のメールを会員全員に送り、「オンライン勉強会」参加者を募集しました。参加希望者は20名です。

第2、第4月曜日が、休祭日・年末年初等の特別な日にならない限り、ZOOMによる「勉強会」を続けています。令和2年10月26日からスタートして今年11月22日で23回になります。

コロナの前までは、園田学園キャンパスの教室で勉強していましたが、参加者はパソコン持参になるので大きな負担になっていました。

今後、シニア専修コースが、対面で再開されても「ITを楽しむ会」はZOOMによる「オンライン勉強会」を続ける予定です。

### 2. 「オンライン勉強会」のテーマ

最初は、ZOOM、Wi-Fi、ネットワーク関係等の勉強をしました。そして、オフィスの勉強に入りますが、オフィス、特にワードはあまり継続的な勉強には向いていないようです。

継続的に「勉強会」を行っていくためには、また「ICT」の基本的な、重要な事項を勉強するには、国家試験である「基本情報技術者試験」の問題を行うことがベターであると思い、今はそれを中心に勉強しています。

### 3. 「オンライン勉強会」のテキスト

最初は、紙ベースのテキストを作成しましたが、オフィスは過去に皆さんにお配りしたテキストを使用しました。

「基本情報技術者試験」は過去問題集から適切な問題を抜粋して使用しています。「勉強会」で使ったテキスト等から基本的な、重要な事項は項目別にブログに掲載し、今、ブログに掲載している項目は、39項目になっています。



## けやきカラオケクラブ例会

けやきカラオケクラブ 木下 俊造

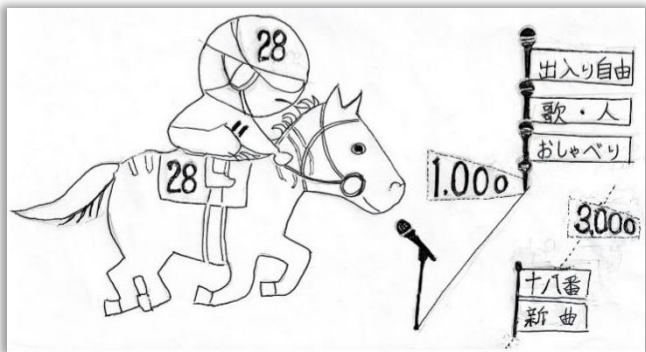
2021年11月24日に、阪急塚口駅近くの店舗で、待望久しい例会を1年ぶりに開催いたしました。

ゲストの参加もいただき10名の皆様で、密回避のため3部屋で実施となりましたが、大きめの部屋2部屋が旧交を温める場になったのは、久しぶりの皆様方の思いの表れだったようです。

部屋数が多かった今回は、いつもより多い70曲を歌っていただき、クラブ設立の2014年から通算2,271曲、曲目数も972を数え、あと28で1,000の大台に乗ります。

次回1月24日予定の新年例会では、1,000曲目達成の可能性もありますが、まずは落ち着いた状況で開催できればと願っています。

例会は、今も昔も出入り自由、おしゃべり自由、拍手も自由、十八番も新曲も大歓迎ですので、参加ご希望の方は、近くの部員に連絡して



いただければありがたいです。

大学立ち入りもできず、所属も不詳でクラブ活動ができるのか、自問自答の1年で出た結論は、第四コーナーを回ったシニアに、できるかできないか考えている時間がもったいない。

歌が好き、人が好き、おしゃべりが好きなど、何かがあれば、できるかできないか考えるより、やる！ と今回の例会開催になりました。

まず目前の1,000曲目に、続いては通算3,000曲にトライしてみましょう！

## 顔を合わせて 編集会議！

「けやき便り」編集クラブ 櫻井 秀也

編集クラブは、第5波が落ち着いた11月1日と12月6日に顔を合わせての編集会議を開きました。会場は「塚口南地域学習館」です。

コロナ下では、Zoomで編集会議も行いましたが、大部分はメールと共有ファイルへの書き込みに限られましたので、久しぶりの対面となるとなにより解放されて、皆さん自然と明るい笑顔になります。



「塚口地域学習館」での編集会議の様子(12/6)

12/6は忘年会も兼ねました。有意義な(?)「編集会議」をそこそこに終わると、すばやく「食べながら飲みながら話をする」場所へ移動します。一年を振り返りながらの話に花が咲き、2次会…へ、久しぶりに(毎度ですが)大いに盛り上がりました。

コロナが大分落ち着いた「今」を大切に！やはり対面が一番でした。



「若駒寿司」で忘年会(12/6)

## \*\*\* 読者の声 \*\*\*

### 「自粛生活での思い」と「学校へ望むこと」

けやき便り編集クラブでは、クラブ・同好会の代表の方や編集クラブのメンバーを通して、シニア専修コースの皆さま(サークル部員、同期生、お仲間)にお呼びかけし、皆さまからの「声」を募りました。

11/16~12/10の間で、以下2項目について記述式で回答をお願いしたものです。回答いただいた皆さまの、イニシャルまたはニックネームと、記述をそのまま掲載します。

#### 【質問項目】

##### 1. 長引いた自粛生活の中で感じたこと

気づいたこと、変わったこと、良かったこと、悪かったこと  
感染者が減少した今、これからやりたいこと

##### 2. 「学校へ望むこと」について

授業再開までの間、学校に望むこと、やってほしいこと  
授業再開へ向けてのお気持ち、期待

#### (ヨンマルロク)さん

##### 1. 長引いた自粛生活の中で感じたこと

自粛生活に慣れっこになっていますが、感染が下火になっていても、旅行やイベント参加への意欲がわかなくなっている。

##### 2. 「学校へ望むこと」について

学生がOKで、高齢者がNOの理由が理解できない。高齢者の重症化リスクが高いというのはワクチン接種後の現状では理由にならないと思う。授業再開に向けての学校の方針や基準を示して欲しい。(例えば兵庫県でのコロナ新規感染者が10名以内の日が1カ月以上とか、3回目のワクチン接種証明とか)

#### (M&S)さん

##### 1. 長引いた自粛生活の中で感じたこと

1年間、園田へはほぼ毎日通学していましたが、自粛により自宅から園田学園への通学がなくなり、日々の運動不足を実感。

##### 2. 「学校へ望むこと」について

授業再開を待ち望みます。オンライン講座はいくつか素晴らしい先生方の講義が有りました。是非第2回目のシリーズを開講頂きますようお願いします。

#### (KT)さん

##### 1. 長引いた自粛生活の中で感じたこと

大学に通学する時間、外に飲みに行く時間、コーラスも中止、ウォーキングクラブも中止。これら時間をどうしたら潰せるのか。とにかく家に引きこもり時間を潰すしかない。家にはパズル(今まで手を付けなかったパズルも含めて)が多くあり、頭の体操をしよう。また読んでいない本が横積みになっているのを少し片づけよう。と、こんなことを思いながら過ごしてきました。ここ数か月、午前パズルと読書、午後はTV(主に古い映画)と昼飲み、時々料理を。町の図書館が開館になったときは借読。週に2冊を読了。あと一年かそこらマスクを外せないのが辛いかな。

## 2.「学校へ望むこと」について

図書館をはやく開放してほしい。公開講座形式でもよいから講師の話を聴きたい。場所は大学が無理なら市の生涯学習プラザなどを活用したらどうでしょうか。

### (m. d)さん

#### 1. 長引いた自粛生活の中で感じたこと

2年近くもコロナ禍で、自粛生活を送る生活が続きますが高齢者にとってしんどい日々でした。人との関わり、コミュニケーションの大切さを感じる日々でした。人は、互いに協力し 助け合って生きている事、今までいろんな人に助けられたか感謝しています。

#### 2.「学校へ望むこと」について

学校にお願いしたい事は、シニア専修コースの研究生をほったらかしにしないでください。園田学園女子大学の生徒さんの事で大変でしょうが、私達研究生の事も忘れずに連絡をお願い致します。一日でも速く、講義を再開してください。m(\_)\_m

### (K. I)さん

#### 1. 長引いた自粛生活の中で感じたこと

園田シニアに入学し、積極的に日々のカリキュラムを楽しんでいましたが、その後自発的に計画を立てることも出来ず、2 年が経とうとしていることに恐ろしさを感じています。

#### 2.「学校へ望むこと」について

大学のホームページを時々確認していますがシニアについての記載は少なく、今後の方針等今話し合われていることなど、難しいと思いますが少しでも書いていただけると参考になるのですが・・・ よろしく願いいたします。

### (S. H)さん

#### 1. 長引いた自粛生活の中で感じたこと

世の中が静かになり、それが案外心地よく感じた。

コロナが落ち着いて、また海外からの来訪者でごった返すかと思うと、ややうんざりとした気持ちにもなる。

これからは、国内外問わず、静かでゆっくりと自然を楽しめる場所、おいしい食や温泉へ家族や仲間と旅行をしたい。一人旅も良い。

## 2.「学校へ望むこと」について

授業が再開できない間、食堂やチャティーの利用は無理としても、図書館の利用はさせていただきたい。

シニアの部活や自主学習グループが利用できる教室を、1室開放して欲しい。例えば正門やテニスコートに近い端の部屋でよい。プロジェクターを貸していただければさらにありがたい。時間を決めて、テニスコートを開放して欲しい。

来春からの学校の再開を切に希望します。

### (よねさん)

#### 1. 長引いた自粛生活の中で感じたこと

2年近い自粛生活になると思いますが、もう少しまとまったことをするべきだった、と反省しています。

#### 2.「学校へ望むこと」について

来年1月から対面式の授業を行って頂きますが、コロナの今の状態がこのまま続けば、来年4月からは、晴れて対面式のシニア専修コース開講！楽しみです。来年度の時間表の発表はいつあるのかな??

### (T. I)さん

#### 1. 長引いた自粛生活の中で感じたこと

学校再開すべきです。

#### 2.「学校へ望むこと」について

シニアは2回のワクチン接している人がほとんど。対面の授業再開すべきです。私たちには時間がないので😊

**(MT)さん****1. 長引いた自粛生活の中で感じたこと**

自宅や自宅周辺だけでの生活でも楽しめることがあり、この年齢で新しく貴重な体験ができた。しかし、感染が収まれば元気に過ごせる貴重な 2 年間を取り戻したい。家族や親しい友人との旅行や食事会を楽しみながら、折角の貴重な体験で得た自分の時間も大切に楽しみたいと考えています。

**2. 「学校へ望むこと」について**

学校へは勉強はもちろん人との繋がりを求めて通っている。休学中に特に望むことはありません。

**(TN)さん****1. 長引いた自粛生活の中で感じたこと**

メールばかりで久しく手紙を書いていませんでした。そんな時に、友人から手紙が届きました。久しぶりのこと。行間から友の顔が見え声が聞こえ嬉しくなりました。私もハガキなら書けると、はがきに短い便りを出すことにしました。すっかり忘れていた手紙文化です。絵葉書を探したり切手に拘ったり、そういう楽しみも増えました。20 年前は絵手紙を書いていたこともあり、又復活出来たら嬉しい。

**2. 「学校へ望むこと」について**

学び舎が学生さんと一緒というのが一番のネックでしょう！それは承知しています。そんな中でも今回特別講座の案内も来て、シニアのことも考えてくださっていると嬉しく思っていますが、オミクロンが流行したらどうなるのか？先が読めない状態です。

**(KT)さん****1. 長引いた自粛生活の中で感じたこと**

自粛が長くなり、計画が崩れていった。体力回復とはならず、大きく減退、思考も鈍った。クラスメイトとの、日常の会話や情報がなくなった。骨折の長期回復療養には(12 胸椎圧迫

骨折)よかったかもしれない。

**2. 「学校へ望むこと」について**

授業再開の有無を待ち望んだ。学生さんの教育が第一であることは認識していますが、シニアコースは、決してお邪魔はいたしません。これからも代替え授業を何らかの方法で計画をお願いいたします。11 月 14 日現在

**(たけちゃん)さん****1. 長引いた自粛生活の中で感じたこと**

自粛生活で良かったことはありません。やるべきことがなく「ダラダラした生活」のみでした。自粛期間が明確であれば色々な事が考えられたが、不明なので次の手が打てなく貴方任せとなりました。自粛生活で新たに始めたのがラジオ体操です。朝早く起床してラジオから流れる音楽に合わせて体動かしています。春・夏・秋までの季節は良かったのですが、冬となり体が起きなくなっています。春夏秋冬頑張ります。

**2. 「学校へ望むこと」について**

早く学校の授業を再開して欲しい。シニアの皆さんは再開を待っています。再開！再開！

**(B. B)さん****1. 長引いた自粛生活の中で感じたこと**

今の生活が日常になってしまっている。出かけることがおっくうだと思ふことがある。あまり人と会話しないことにも慣れてきた。買い物や通院などどうしても話さなければいけないときだけ、話している感じ。

**2. 「学校へ望むこと」について**

できれば週 1 回でもいいから対面授業を再開してほしい。感染対策をしっかりと定員を減らし、時間をずらせばどうでしょうか。先生方には負担になるが。



## 園田学園の生涯学習 ～再会の 2022 年～

皆さま、いかがお過ごしでしょうか。

今年度は、前年度に続いて学外者の入構制限が解除されないままスタート。シニア受講生の皆様には、生涯学習 HP 上に開設した「受講生用ページ」から大学の情報確認、また、「けやきのわ～シニア受講生のための交流ブログ～」を活用、交流を続けていただくことをお願いしてまいりました。

本学とフジッコ（株）との産学連携共同企画として「カスピ海ヨーグルトの秘密について」の講演等や、本学の研究成果を地域社会に還元し、大学の社会的使命の一端を果たすことを一番の目的とする「SONODA インテリジェンス講座」等、オンライン形式（ZOOM や YOUTUBE 配信）進めてまいりましたが、我々の気持ちは一つ、変わることはありません。「キャンパスにおける生涯学習再開」です。

今回の「特別公開講座」（対面式）は、ワクチン 2 回接種済証明、図書館・食堂利用不可、40 名の定員等、条件付き、制限はありますが、来年度の「シニア専修コース」再開に向けた大きな一歩となります。皆様方のご理解、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

### ■第一弾「向田邦子ワールドの魅力」

講師 吉村 稠（本学名誉教授）

受講料・3 回分合計 3,600 円（消費税・資料代等込） 定員・40 名（先着順）

向田邦子が没して 40 年。いかに節目の年を記念してとはいえ、刊行された作品は今なおベストセラー並みの数字を記録し、雑誌の特集号が何種も刊行されている。そのスケールは一つの「向田邦子ワールド」と呼ぶにふわしいスケールと奥深さを感じさせる。

では、一体何が？ 何が没後 40 年の「今」に響いてくるのか？

今回、改めてその問いをかみしめつつ、3 つの視点から「向田邦子ワールドの魅力」を考えてみたい。

|     |                 |                                    |
|-----|-----------------|------------------------------------|
| 第1回 | 1月22日（土）<br>2時限 | 魅力の要因と根源～<br>「たった一つの私の財産」～         |
| 第2回 | 1月29日（土）<br>2時限 | 遺言状から生まれた<br>作品～遺言状・<br>「わび状」・直木賞～ |
| 第3回 | 2月5日（土）<br>2時限  | 恋と恋文と向田邦子<br>～あわや<br>＜お宮入の恋？＞～     |

### ■第二弾「日本の年中行事

～その起源と変容～」

講師 松山 利夫（平安女学院大学非常勤講師）

受講料・2 回分合計 2,500 円（消費税・資料代等込） 定員・40 名（先着順）

コロナ禍で多くの年中行事が縮小されたり、中止になりました。そうなるまで、年中行事が暮らしのリズムを刻んでいたことに、あらためて気づかされた昨今です。そこで今回は、左義長と節分祭を取り上げ、左義長は古代中国の、節分祭の豆まきは明代の風習の影響を強く受けて成立したとする説を紹介します。

|     |                |                        |
|-----|----------------|------------------------|
| 第1回 | 2月4日(金)<br>4時限 | 左義長～起源は古代<br>中国のスポーツ～  |
| 第2回 | 2月8日(金)<br>4時限 | 節分祭～豆まきは中<br>国・明の風習から～ |

### ■第三弾「神社 ～その歴史と文化～」

講師 中村 直人(関西大学 非常勤講師)  
受講料・2回分合計 2,500 円(消費税・資料代等込) 定  
員・40 名(先着順)

日本の歴史や伝統文化の形成において、信仰の果たした役割は大きいです。その中で神社(神祇信仰)は、仏教と一体化しながら、独特な展開を遂げてきました。

今回は、大阪を代表する神社である住吉大社と、熊野参詣で知られる熊野三山について取り上げます。前近代の神社は人々にとってどのような存在であったのか。また、神社はどのようにして人々の信仰を集めてきたのか。ご紹介しながら考えていきたいです。

|     |                 |                          |
|-----|-----------------|--------------------------|
| 第1回 | 2月8日(火)<br>2時限  | 住吉大社<br>～航海・武・歌の<br>守護神～ |
| 第2回 | 2月22日(火)<br>2時限 | 熊野三山<br>～蟻の熊野詣～          |

### ■第四弾「日本の女帝を考える」

講師 原 朋志(関西学院大学 非常勤講師)  
受講料・2回分合計 2,500 円(消費税・資料代等込) 定  
員・40 名(先着順)

日本は、古代を中心に女帝即位の事例があります。しかし、天皇系譜を見るとその数は決して多くはなく、イレギュラーな存在であったと考えられます。ただ、そこには女帝が即位すべき事情があり、女帝の存在意義もたしかにあったと思われます。

一方、現代では女帝の是非を巡る議論が活発化しています。近い将来、約250年ぶりの女帝は誕生するのか? 本講座では、女帝の歴史や意義、

存在の是非について考えます。

|     |                 |                 |
|-----|-----------------|-----------------|
| 第1回 | 2月10日(木)<br>2時限 | 日本の女帝と意義        |
| 第2回 | 2月24日(木)<br>2時限 | 女帝の是非をめぐる<br>議論 |

(今回の特別公開講座における「ニューノーマル」な  
取り組み一例)

2021 年度 特別公開講座

**A-60-後「向田邦子ワールドの魅力」  
入構許可証 兼 受講証**

受講者番号: 34631973

|                              |                                                                                                                    |
|------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (ふりがな)<br>氏 名                | ( )<br>〇〇 〇〇<br>〇〇 〇〇                                                                                              |
| ご受講日<br>(全日 10:40<br>～12:10) | 第一回 1/22(土) 魅力の要因と根源 ～「たった一つの私の財産」～<br>第二回 1/29(土) 遺言状から生まれた作品～遺言状・「わび状」・直木賞～<br>第三回 2/5(土) 恋と恋文と向田邦子～あわやくお宮入の恋?>～ |
| 有効期限                         | 上記、ご受講最終日まで                                                                                                        |

園田学園女子大学・園田学園女子大学短期大学部 社会連携推進センター 生涯学習ユニット

**初回受付時に、ワクチン2回接種済証と一緒にご提示ください。**

・ご入構は10:00から可能です。正門よりお入りください。そのまま「社会連携推進センター」

毎授業時、以下の「体調報告カード」の提出が必要です。

該当する体調報告カードを点線に沿って切り取り、当日ご自宅で測定された体温と体調の状況、ご着席された座席の番号を記載の上、担当講師もしくは指定のBOXへ提出してください。

| 体調報告カード                                                    | 体調報告カード                                                    | 体調報告カード                                                    |
|------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|
| 1月22日(土)<br>【A-60-後】第一回 10:40～                             | 1月29日(土)<br>【A-60-後】第二回 10:40～                             | 2月5日(土)<br>【A-60-後】第三回 10:40～                              |
| 氏名: 〇〇 〇〇<br>本日、着席された座席番号<br>[ ] 番                         | 氏名: 〇〇 〇〇<br>本日、着席された座席番号<br>[ ] 番                         | 氏名: 〇〇 〇〇<br>本日、着席された座席番号<br>[ ] 番                         |
| 体温: ℃ (計測時刻: )<br>体調: ( 良 ・ 不良 )<br>体調不良の場合の具体的な症状:<br>( ) | 体温: ℃ (計測時刻: )<br>体調: ( 良 ・ 不良 )<br>体調不良の場合の具体的な症状:<br>( ) | 体温: ℃ (計測時刻: )<br>体調: ( 良 ・ 不良 )<br>体調不良の場合の具体的な症状:<br>( ) |
| 社会連携推進センター 生涯学習ユニット                                        | 社会連携推進センター 生涯学習ユニット                                        | 社会連携推進センター 生涯学習ユニット                                        |

### 2022 年度のシニア専修コース

については、年明けに詳細についてお知らせいたします。これまでと同様、生涯学習ユニットHP、ブログの定期的なご確認をお願い申し上げます。

再開(再会)の日まで、皆さま、お元気で!

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

社会連携推進センター 生涯学習ユニット

## ▶編集後記◀

第25号編集中に、寂聴さんが亡くなられた。

朝日新聞に月一度お元気なエッセイを載せられていた。いつまでもいつまでもそれは続くと思われたが、思いもかけずあっという間に逝ってしまわれた。百歳まであと一步の99歳だった。

そして『千の風』の訳詞で一躍時の人になった新井満さんが誤嚥性肺炎で亡くなられたとの訃報も入った。まだまだ若い75歳だった。もうずいぶん前、北海道を旅した時に大沼公園で新井満さんを見かけた。黒いマント姿でカッコよくさっと通り過ぎられた。

お二人とも顔を思い出せば、千の風になってそこここに来てくださりそうな気がする。にこやかな寂聴さん。お澄ましで通り過ぎられた新井満さん。

コロナ禍も二度目の冬となりました。

「寂聴のいない京都に雪が降る」

研究生 西島 登志子

コロナ禍となり不自由な生活が続く現在、人との繋がりがなくなり、人と会ってお喋りしたり、食事をしたり、笑いあった日々がなんと幸せな生活だったことでしょう。

今回の投稿の中で戦後76年も経過している今なお、戦争で翻弄されて口では言い表せない苦難を抱えておられる方たちがいることを知り深く心に残りました。

コロナの収束を願うと同時に、語りかけボランティアの活動が再開されて「中国帰国者」の方々が一日も早く心穏やかに暮らせる日が来ますようにと心からお祈りいたします。

研究生 平田 好子

後期発刊にあたり、クラブ活動なども知り学友と繋がっていたと、うれしく思った。

自粛の中でも、出来ることは着々と進められていたことが伺え、力強さも感じさせられた。

学内の学生さん達の元気な様子も知りたい。

研究生 峠田 桂子

11月30日に開催された遊歩クラブ67回例会「嵐山を歩く」に参加しました。集合場所である阪急嵐山駅の広場は、参加者の皆さんの声が溢れていました。「久しぶり元気やった！」

「何してたの!!」と約2年余りの空白を埋める如く興に乗って話に夢中になっています。天気予報は、一部地域に降水確率60%となっていました。参加者のパワーで風もなく恵まれた天気となり、コロナ禍の自粛から解放され満面に悦びの表情が溢れていました。

参加者の皆さんは、早くコロナ禍以前に戻り学園生活、クラブ活動を進めたいと思われています。筆者もシニアの皆さんと同じ思いで、授業・クラブ活動を行いたい気持ちで一杯です。

文歴3年 藤原 多計治

電子版も三度となると、以前のような「けやき便り」が遠くへ行ってしまったようで、寂しいような懐かしいような複雑な気持ちです。

対面授業はさておき、最近は各クラブにも動きが出てきたようで、活躍されている皆様に元気をいただいています。

外へ出ることが減ったせいか、運動することや歩くことに関心を持つようになり、通学時に何歩ぐらい歩いていたのか計算すると、ほぼ6,000歩でした。この6,000歩は先生方の講義受講、仲間との語らい、クラブでの活動にとどまらず、健康維持にも大きな貢献をしてくれていました。

残念ながら、これまでの失われた6,000歩は戻ってきませんが、来春こそ新しい6,000歩と、素晴らしい投稿をいただいた皆様に、笑顔で会えるよう願っています。

研究生 木下 俊造

園田シニアの休校から、2度目の冬を迎えました。

園田シニアで“面白がって楽しむこと”を学び、日々の今を楽しんでいます。

日課となったウォーキングは、六甲山系に沈みゆく夕日を見ながら楽しんでいます。

静寂の中に光り輝く夕日を、その夕映えを写す昆陽池を、水際に立つアオサギを、水面からいっせいに飛び立つカモの群れを、ねぐらに急ぐカラスを。

日々移り変わるそれらの光景を、自然の恵みの中で、あらためて感じ入るひとときです。

研究生 三木 静子

年齢を重ねて「退屈」になるのはよくないという年配の有名人がラジオで言っていた。自身「退屈」はしていないが、コロナ禍で「億劫」と「面倒くさい」がはびこっている。

よって断捨離は遅々として進まず、ネットフリックス導入でテレビ三昧化している。年末に向けてネットフリックスを封印しなければ……。

2022年はよき年になりますように！

研究生 金森 扶美子

前号「けやき便り」(第24号)を発行したのは7月4日でした。今号は、2020年春以来、4回目の電子版になります。

コロナ禍が長引く中、園田で顔を合わせて学んでいたシニアの、どれだけの方が学校再開への期待を持ち続けておられるか、原稿は寄せていただけるのか、正直なところ自信がありませんでした。

それでも、募集を始めると、多くの方から原稿が寄せられました。うれしい限りです！

また「読者の声」では、学校の再開を希望する声一色でした。仲間とともに、園田の教室で学び、顔を合わせて話ができることが何よりなのだという気持ちを感じます(私も同じです)。

学校から、1月からの公開講座の募集がありました。制限はあるものの、ほぼ2年ぶりに園田学園の空気が吸えそうです。

シニアにとって、半年、一年はとても貴重です。2022年こそ、明るい年になって欲しいと願うばかりです。

文歴3年 櫻井 秀也

## 『けやき便り』に投稿を

「けやき便り」では、皆さんからの自由投稿をお待ちしています。

何気ない毎日の中での気持ちの変化や気づき、新たに取り組まれたこと、テレビや新聞、ネットの付き合い方などなど、こんなことと思わずに、エッセイ風にお寄せいただければと思います。もちろん、皆さまの趣味(読書、映画、絵画、俳句・川柳など)の紹介や個人研究なども、ぜひお寄せください。

### 原稿についてお願い

●原稿の長さは自由ですが、目安として、0.5～2ページ、1ページあたりは写真・イラストを含めて本文1400字～1600字程度です。

手書きや印刷物で頂いても、パソコンのデータでも結構です。

●『けやき便り』はウェブ上にも掲載され、カラーで見ることができます。写真付きで投稿される方は、肖像権などの問題が生じないように事前に撮られる方の了解を得ていただくようお願いいたします。

●投稿される方はお名前を書いていただきますようお願いいたします。無記名・匿名・ペンネーム等のご遠慮ください。

●編集クラブ員または下記アドレス宛に原稿をお送りください。

[hideyasakurai94@gmail.com](mailto:hideyasakurai94@gmail.com) 櫻井 秀也